本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　はじめに

各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第 2 章　ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかたなどを説明しています。

第 3 章　BIOS セットアップ

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第 4 章　困ったときに

本パソコンにトラブルが発生した場合などの解決方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

第 5 章　技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に 6
安全にお使いいただくために 6
本書の表記 7

第 1 章　はじめに

1 各部の名称と働き 12
パソコン本体前面 12
パソコン本体右側面 15
パソコン本体左側面 17
パソコン本体背面 19
パソコン本体下面 20
コネクタボックス 21
2 状態表示 LCD について 23
3 ポインティングデバイスについて 26
フラットポイント 26
4 キーボードについて 28
キーボード 28
5 電源を入れる 32
電源を入れるときの注意 32
電源の入れかた 32
6 電源を切る 34
電源を切るときの注意 34
電源の切りかた 34
7 リセットする 38
リセットの方法 38
8 バッテリについて 40
充電する 40
バッテリで使う 41
残量を確認する 42
LOW バッテリ状態 43
バッテリの注意 44
内蔵バッテリパックを交換する 45

第 2 章　ハードウェアについて

1 周辺機器を取り付ける前に 48
使用できる周辺機器 48
周辺機器について 49
2 PC カードを使う 50
PC カードを使うときの注意 50
PC カードをセットする 51
PC カードを取り出す 53
3 メモリを増やす 56
メモリを交換する 56
4 モバイルマルチベイユニットについて 59
モバイルマルチベイユニットを使うときの注意 59
モバイルマルチベイユニットを交換する前に 60
モバイルマルチベイユニットを交換する 62
5 CD について 63
取り扱い上の注意 63
CD をセットする／取り出す 63
6 コネクタボックスについて 65
コネクタボックスを取り付ける 65
コネクタボックスを取り外す 66
7 内蔵 FAX モデムを使う 67
接続について 67
8 内蔵 LAN を使う 69
接続について 69
9 携帯電話や PHS を接続する 71
携帯電話や PHS の接続について
（Windows95 および WindowsNT ではサポート外） 71
10 マウスを使う 72
PS/2 マウスの接続 72
USB マウスの接続
（Windows95 および WindowsNT ではサポート外） 73
マウスの使いかた 75
11 テンキーボードを接続する 76
12 プリンタを接続する 77
プリンタを接続する 77
13 外部ディスプレイを接続する 79
外部ディスプレイを接続する 79

14 セキュリティについて 81
セキュリティボタンについて 81
スマートカードについて 81
指紋センサーについて
（Windows95 および WindowsNT ではサポート外） 82

第 3 章　BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは 84
2 BIOS セットアップの操作のしかた 85
BIOS セットアップを起動する 85
設定を変更する 86
各キーの役割 87
変更内容を取り消す 88
BIOS セットアップを終了する 89
3 ご購入時の設定に戻す 90
4 メニュー詳細 91
メインメニュー 91
詳細メニュー 92
セキュリティメニュー 95
省電力メニュー 97
起動メニュー 100
情報メニュー 101
終了メニュー 101
5 BIOS のパスワード機能を使う 102
パスワードの種類 102
パスワードを設定する 102
パスワードを変更する／削除する 104
6 BIOS が表示するメッセージ一覧 106
メッセージが表示されたときは 106
メッセージ一覧 107

第 4 章　困ったときに

1 こんなときには 114
それでも解決できないときは 118

第 5 章　技術情報

1 ハードウェアのお手入れ 120
パソコン本体のお手入れ 120
フロッピーディスクドライブのお手入れ 120
スーパーディスクドライブのクリーニング 122
2 テレビやラジオなどの受信障害防止について 123
3 フロッピーディスクユニットについて 124
FDD ユニット（USB）／
内蔵スーパーディスクドライブユニットについて 124
FDD ユニット（FMV-NFD324）について 125
4 外部ディスプレイの走査周波数について 126
外部ディスプレイ表示のみの場合 126
同時表示の場合 126
5 音量の設定について 127
Windows Me、Windows2000 または Windows98 の場合 127
Windows95 の場合 128
WindowsNT の場合 129
6 コネクタのピン配列と信号名 131
7 仕様一覧 134
FMV-6600MF8/X、FMV-655MF8/W 134
FMV-6600MF8/X1、FMV-6600MF8/X2 137
8 その他の注意事項 140
廃棄について 140

索引 141

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本書には、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。
また、本書および『安全上のご注意』は、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

注意
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（）は、参加各国の間で統一されています。

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

本装置の使用環境は、温度 5 ℃～ 35 ℃、湿度 20% ～ 80% です。また、保存環境は、温度 -10 ℃～ 60 ℃、湿度 20% ～ 80% です。なお、本装置での長時間の連続運用は避けてください。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、WindowsNT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の商標です。
Puma Technology, Intellisync は米国プーマテクノロジー社の商標です。
Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

本書の表記

警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

画面例

本書に記載されている画面は一例です。お使いのパソコンに表示される画面やファイル名などと異なる場合があります。ご了承ください。

イラスト

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、お使いのパソコンと異なる場合があります。ご了承ください。

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2000 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください（▪▪▶『修理サービス網一覧表』参照）。

カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記	
Microsoft® Windows®Millennium Edition	Windows Me	Windows
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows2000	
Microsoft® Windows®98 operating system SECOND EDITION	Windows98	
Microsoft® Windows® 95 operating system	Windows95	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	WindowsNT	
Microsoft® MS-DOS® Operating System Version 6.2/V	MS-DOS	
Intellisync® for Notebooks	Intellisync	
ドライバーズ CD ／マニュアル CD	ドライバーズ CD	
リカバリ CD-ROM ／ドライバーズ CD ／マニュアル CD		
FMV-BIBLO LIFEBOOK	本パソコンまたはパソコン本体	

Memo

第 1 章

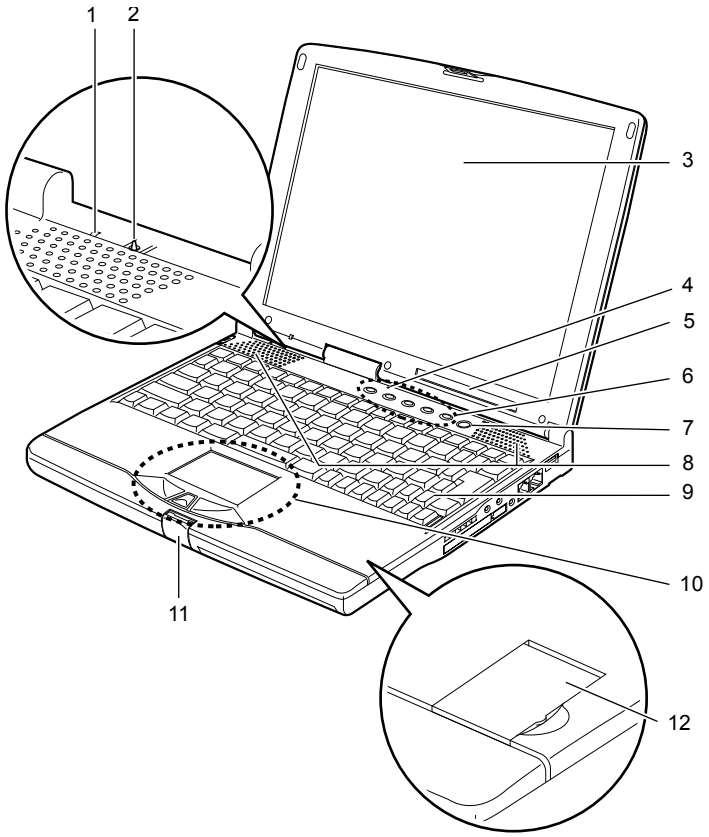
はじめに

各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンを使用するうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 各部の名称と働き 12
2 状態表示 LCD について 23
3 ポインティングデバイスについて 26
4 キーボードについて 28
5 電源を入れる 32
6 電源を切る 34
7 リセットする 38
8 バッテリについて 40

1　各部の名称と働き

パソコン本体前面



1 電界強度表示ランプ

お使いのモデルにより、電界強度表示ランプを搭載しています。
ワイヤレススイッチが ON のときにランプの点灯・消灯・点滅により、電波の強さを表わします。

ランプの点灯状況		電界レベル
点灯したまま		5
点滅	点灯時間＞消灯時間	3 ~ 4
	点灯時間＝消灯時間	1 ~ 2
	点灯時間＜消灯時間	0
消灯したまま		圏外

2 カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを開閉したときに、本パソコンをサスペンド（一時停止）／レジューム（再開）させたり、液晶ディスプレイのバックライトを消灯させたりするためのスイッチです。

3 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

- 液晶ディスプレイの特性について
  以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。
  - 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）、または 144 万個以上（解像度 800 × 600 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
  - 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

4 内蔵マイク

音声（モノラル）を録音できます。

POINT

- カラオケソフトなど、マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調節するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していない場合は、マイクを「ミュート」（消音）にしてください（••▶ P.127）。
- 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

5 状態表示 LCD（エルシーディー）

本パソコンの状態が表示されます。
「状態表示 LCD について」（••▶ P.23）

6 セキュリティボタン

添付の「セキュリティボタン」で設定したパスワードの入力や、添付の「ワンタッチボタン設定」で割り当てたアプリケーションの起動や新着 E メールの受信などを行うボタンです。添付の「セキュリティボタン」または「ワンタッチボタン設定」をインストールすると、使用することができます（••▶『ソフトウエアガイド』参照）。

7 SUS/RES（サスレス）スイッチ

パソコン本体をサスペンド（一時停止）／レジューム（再開）させるためのスイッチです。

8 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

9 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。
「キーボードについて」（••▶ P.28）

10 フラットポイント

マウスポインタを操作します。添付の「Alps Pointing-device Driver」をインストールすると、中央のスクロールボタンを使用することができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。中央のスクロールボタンを押すと、画面が上下にスクロールします。

POINT

- **お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。**

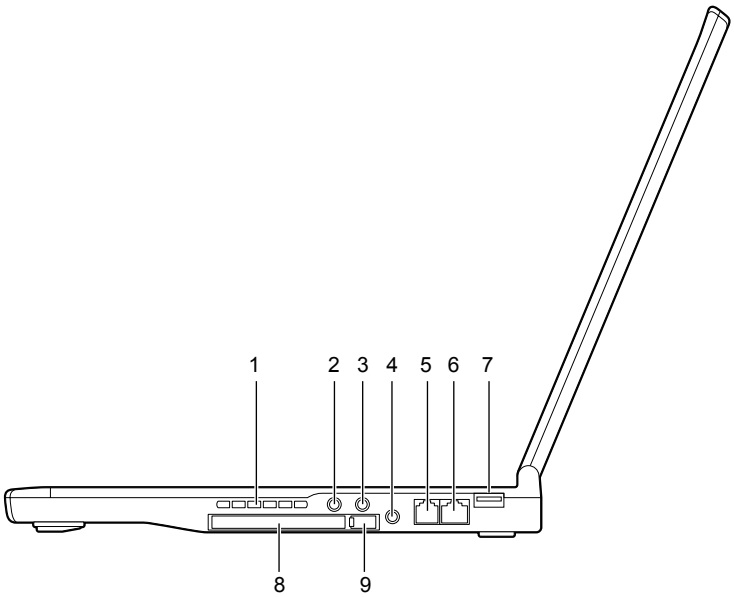
11 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。
液晶ディスプレイを開くときは、押してロックを外します。

12 指紋センサー

お使いのモデルにより、指紋センサーを搭載しています（••▶ P.82）。
指紋を識別してセキュリティを解除します。

パソコン本体右側面



1 通気孔

空冷用ファンが空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意

聴力障害

- ヘッドホン・ジャック、ラインイン・ジャック、マイクイン・ジャックに接続するときは、【Fn】＋【F8】キーを押してパソコン本体の音量を最小にしてから接続してください。
  機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2 マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。
ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

3 ラインイン・ジャック

AV 機器などの出力（LINE OUT）ジャックと接続するためのアナログ入力（LINE IN）端子です（外形 3.5mm のステレオミニプラグに対応）。

4 ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠注意

聴力障害

- ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害

- ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

5 モジュラーコネクタ

お使いのモデルにより、モジュラーコネクタを搭載しています（••▶ P.69）。

インターネットやパソコン通信をするときに、モジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。

6 LAN（ラン）コネクタ

お使いのモデルにより、LAN コネクタを搭載しています（••▶ P.67）。

本コネクタは、コネクタボックス接続時にはお使いになれません。コネクタボックスの LAN コネクタをお使いください。

7 USB（ユーエスビー）コネクタ（WindowsNT ではサポート外）

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

8 PC カードスロット

お使いになる PC カードをセットするためのスロットです。

「PC カードをセットする」（••▶ P.51）

POINT

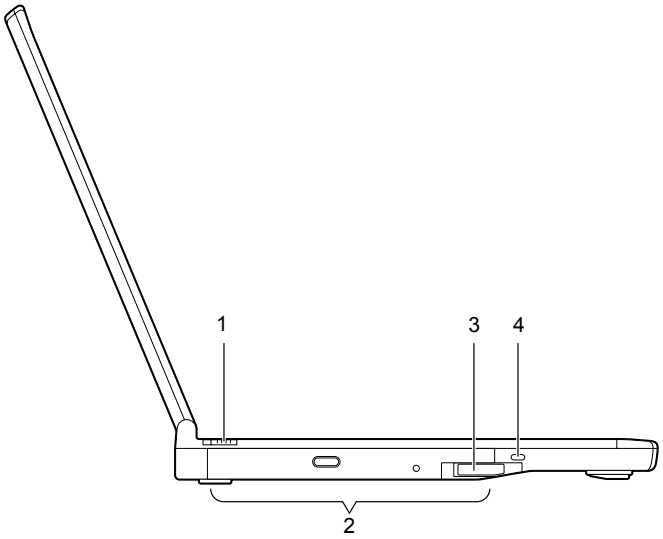
- ご購入時の本パソコンの PC カードスロットには、ダミーカードがセットされています。
- お使いになるOSによっては「スロット1」を「スロット0」に読み替える場合があります。

9 PC（ピーシー）カード取り出し／ロックボタン

PC カードを取り出すときに押します。また、セットした PC カードが不用意に抜けるのを防ぎます。

「PC カードを取り出す」（••▶ P.53）

パソコン本体左側面



1 ワイヤレススイッチ

お使いのモデルにより、ワイヤレススイッチを搭載しています。
H"IN によるデータ通信機能の ON と OFF を切り替えます。
奥にスライドすると ON、手前にスライドすると OFF になります。
病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。
また、本パソコンの持ち運び時には、ワイヤレススイッチを OFF にすることをお勧めします。サスペンド中、H"LINK の E メールの着信通知を受信したときなどは、レジュームするように設定している場合、持ち運び時にレジュームするとハードディスクが故障する可能性があります。

POINT

- ワイヤレススイッチを OFF にした状態では、メール着信通知などがきませんので、ご注意ください。

2 モバイルマルチベイ

お使いの機種により、以下のいずれかが取り付けられています。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット
- 内蔵 CD-R/RW ドライブユニット
- 内蔵 PC カードユニット
- モバイルマルチベイ用カバー

ユニットは交換することができます。
「モバイルマルチベイユニットについて」（▶ P.59）

POINT

- モバイルマルチベイが空の状態では本パソコンを使用しないでください。故障の原因となります。

3 モバイルマルチベイユニット取り外しレバー

モバイルマルチベイに取り付けられているユニットを取り外す場合にレバーを起こします。

「モバイルマルチベイユニットを交換する」（••▶ P.62）

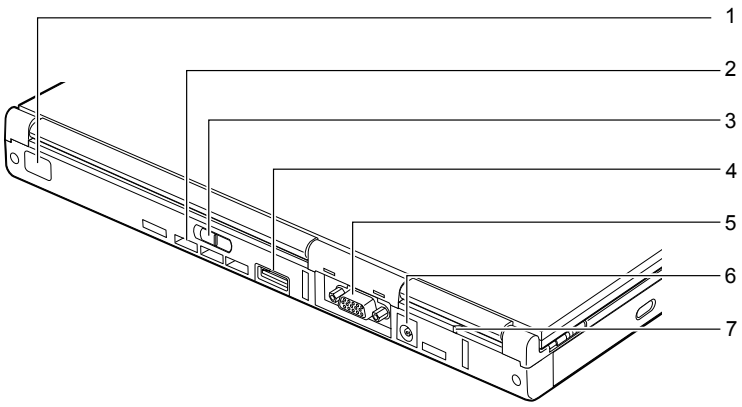
4 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
  商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）
  商品番号：0522010
  （富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）
- 盗難防止用ロック接続時は、モバイルマルチベイユニットの取り外しは行えません。

パソコン本体背面



1 赤外線通信ポート（WindowsNT ではサポート外）

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- 赤外線通信ポートは、Windows98 モデルまたは Windows95 モデルにインストールされているアプリケーション「Intellisync」にてお使いになれます。また Windows Me モデルまたは Windows2000 モデルでは、「ワイヤレスリンク」にてお使いになれます（▪▪▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートに AC アダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。

2 空冷用ファン

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。パソコン本体内部の温度が高くなると、回転します。

⚠注意

故障

- 空冷用ファンの穴はふさがないでください。
  パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

3 MAIN（メイン）スイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。

4 USB（ユーエスビー）コネクタ（WindowsNT ではサポート外）

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

5 外部ディスプレイコネクタ

CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「外部ディスプレイを接続する」（▪▪▶ P.79）

6 DC-IN（ディーシーイン）コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

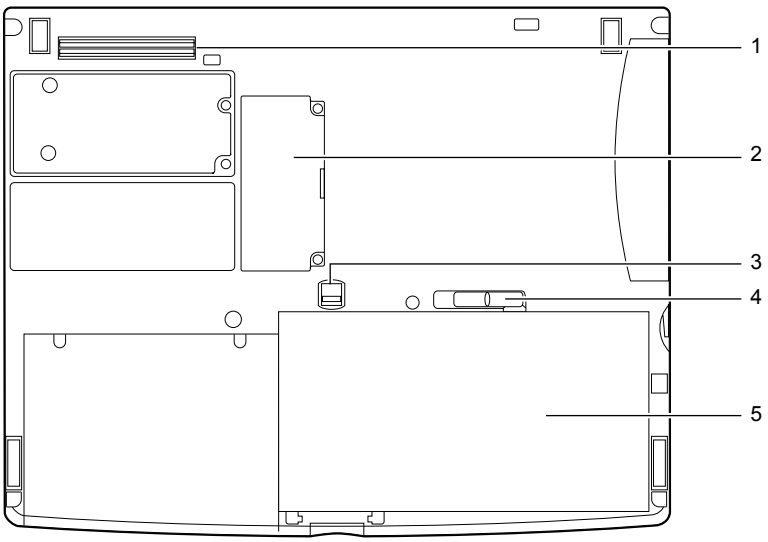
7 電界強度表示ランプ

お使いのモデルにより、電界強度表示ランプを搭載しています（••▶ P.12）。

重 要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

パソコン本体下面



1 コネクタボックス接続コネクタ

コネクタボックスを接続するためのコネクタです。

「コネクタボックスについて」（••▶ P.65）

2 拡張 RAM（ラム）モジュールスロット

本パソコンのメモリが取り付けられています。

取り付けられているメモリを交換して、メモリを増やすこともできます。

「メモリを増やす」（••▶ P.56）

3 解除ボタン

内蔵バッテリパックロックを解除する場合にスライドさせます。

4 内蔵バッテリパックロック

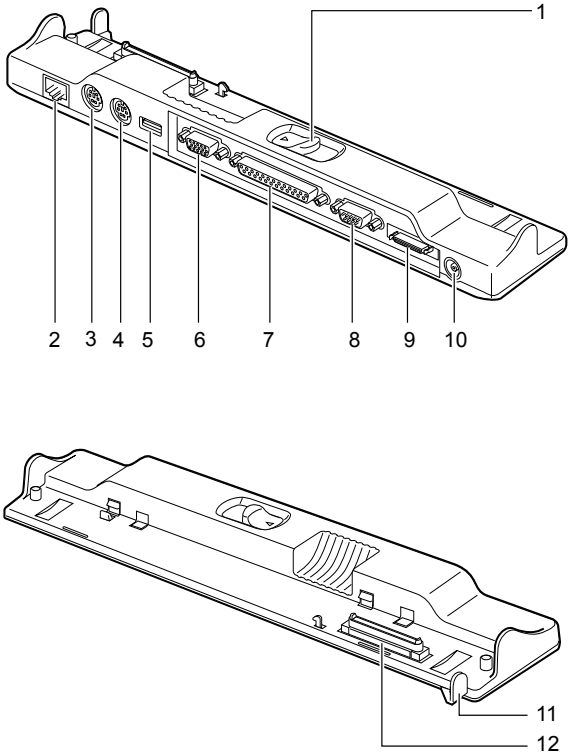
内蔵バッテリパックを取り付け／取り外しをする場合にスライドさせます。

5 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

「内蔵バッテリパックを交換する」（••▶ P.45）

コネクタボックス



1 コネクタボックス取り外しレバー

コネクタボックスをパソコン本体から取り外す場合にスライドさせます。

2 LAN コネクタ

お使いのモデルにより、LAN コネクタを搭載しています。

3 拡張キーボードコネクタ

PS/2 規格のテンキーボードなどを接続するためのコネクタです（▶P.76）。

4 マウスコネクタ

PS/2 規格のマウスを接続するためのコネクタです（▶P.72）。

5 USB コネクタ（WindowsNT ではサポート外）

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

6 外部ディスプレイコネクタ

CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです（▶P.79）。

重 要

- コネクタボックスの外部ディスプレイコネクタは、パソコン本体の各コネクタとは向きが逆になっています。

7 パラレルコネクタ

プリンタなどを接続するためのコネクタです（▪▪▶P.77）。

8 シリアルコネクタ

RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。

9 FDD ユニットコネクタ

FDD ユニット（FMV-NFD324）を接続するためのコネクタです。

「フロッピーディスクユニットについて」（▪▪▶ P.124）

10 DC-IN コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

11 LAN コネクタ接続防止フラップ

お使いのモデルにより、LAN コネクタ接続防止フラップを搭載しています。コネクタボックス接続時にはパソコン本体の LAN コネクタはお使いになれません。

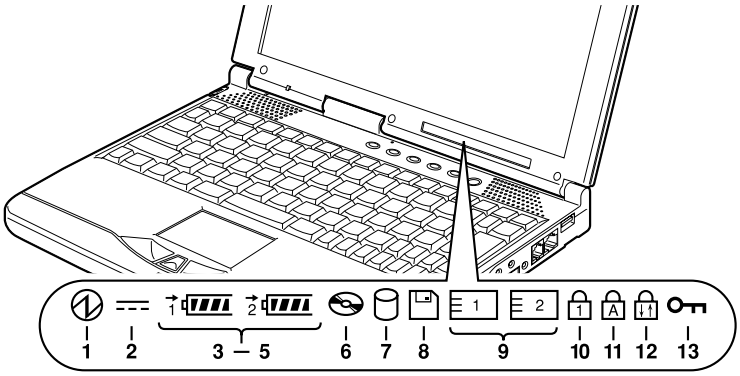
12 接続コネクタ

パソコン本体のコネクタボックス接続コネクタに接続します。

重 要

- 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

2 状態表示 LCD について



POINT

- MAIN スイッチが OFF の場合は、充電中を除いて状態表示 LCD の全表示が消灯します。

1 SUS/RES（サスレス）表示（ ）

本パソコンが動作状態のときに点灯し、サスペンド状態のときに点滅します。

2 AC（エーシー）アダプタ表示（ ）

AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。

3 バッテリ装着表示（1、2、 ）

バッテリが取り付けられているときに点灯します。1 は内蔵バッテリ（▶P.45）、2 はモバイルマルチベイの増設バッテリ（別売）を表します。

4 バッテリ充電表示（ ）

バッテリが充電しているときに点灯します。また、バッテリが熱くなっていたり、冷えていて充電を行わない場合は点滅します。

「充電する」（▶P.40）

5 バッテリ残量表示（ ）

バッテリの残量を表示します。

「残量を確認する」（▶P.42）

6 CD アクセス表示（ ）

CD などにアクセスしているときに点灯します。POINT（▶P.25）もご覧ください。

7 ハードディスクアクセス表示（ ）

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。POINT（▶P.25）もご覧ください。

8 フロッピーディスクアクセス表示（ ）

フロッピーディスクやスーパーディスクにアクセスしているときに点灯します。POINT（▶P.25）もご覧ください。

重 要

- FDD ユニット（USB）を接続した場合、フロッピーディスクにアクセスしても、状態表示 LCD のフロッピーディスクアクセス表示は点灯しません。フロッピーディスクにアクセスしているかどうかは、FDD ユニット（USB）のアクセスランプで確認してください。フロッピーディスクを取り出すときは、アクセスランプが消灯していることを確認してから行ってください。

9 PC カードアクセス表示（ 1 、 2 ）

PC カードにアクセスしているときに点灯します。1 はパソコン本体の PC カードスロット（▶P.16）を、2 はモバイルマルチベイ（▶P.17）に内蔵 PC カードユニットを取り付けた場合の PC カードスロットを表します。POINT（▶P.25）もご覧ください。

10 Num Lock（ニューメリカルロック）表示（ ）

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【Num Lk】キーを押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「テンキーモードについて」（▶P.28）

11 Caps Lock（キャップスロック）表示（ ）

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

【Shift】キーを押しながら【Caps Lock】キーを押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

12 Scroll Lock（スクロールロック）表示（ ）

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】キーを押しながら【Num Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、アプリケーションに依存します。

13 セキュリティ表示（ ）

添付の「セキュリティボタン」でパスワードを設定している場合、パスワード要求時に点灯します。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

POINT

- ハードディスクアクセス表示やフロッピーディスクアクセス表示が点灯中に、MAIN スイッチを OFF にしたり SUS/RES スイッチを操作すると、ハードディスクやフロッピーディスク、またはスーパーディスクのデータが壊れるおそれがあります。
- PC カードアクセス表示は、お使いになる OS によっては「スロット 1」を「スロット 0」、「スロット 2」を「スロット 1」に読み替える場合があります。
- Windows Me、Windows98 または Windows95 では、CD の自動挿入が有効になっていると、定期的に CD の有無の検出が行われます。そのため、状態表示 LCD の CD アクセス表示が定期的に点灯します。自動挿入を無効にするには、次のように操作してください。

  1「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
  2「システム」アイコンをクリックします。
  3「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
  4「CD-ROM」をダブルクリックします。
  CD-ROM デバイスが表示されます。
  5 CD-ROM デバイスをクリックし、「プロパティ」をクリックします。
  「CD-ROM デバイスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  6「設定」タブをクリックします。
  7「オプション」の「挿入の自動通知」（Windows95 は「自動挿入」）をクリックし、無効にします。
  8「OK」をクリックします。
  9「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「OK」または「閉じる」をクリックします。
  10 Windows Me では「システム設定の変更」ダイアログボックスで「はい」をクリックします。Windows98 または Windows95 では、「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。「スタート」ボタンをクリックし本パソコンを再起動します。

  自動挿入を有効に戻すときは、手順 7 で「挿入の自動通知」をクリックし、チェックを付けます。

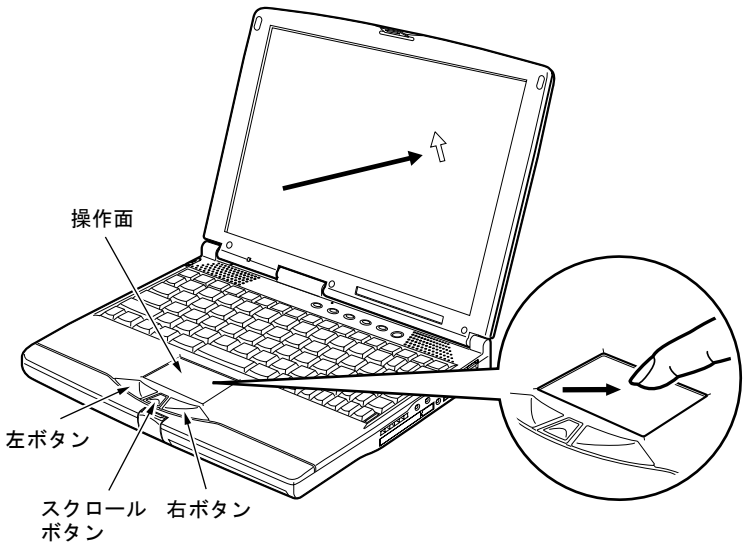
3 ポインティングデバイスについて

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインタを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタンで構成されています。

操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。中央のスクロールボタンは、前後方向に押すことにより、簡単に画面を上下にスクロールできます。

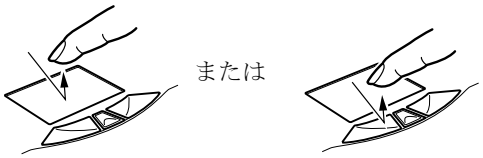


POINT

- フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- 操作面は、湿気などにより結露したり、汚れが付着したりすると、誤動作を起こすことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水分や汚れを拭き取ってください。また、汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- 中央のスクロールボタンは、添付の「Alps Pointing-device Driver」をインストールすると使用することができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。
- PS/2 マウスを使用する場合は、「PS/2 マウスの接続」（••▶P.72）をご覧ください。
- 別売のマウス（••▶P.72）を使用する場合は、フラットポイントとの同時使用についてなどを、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定する必要があります（••▶ P.93）。

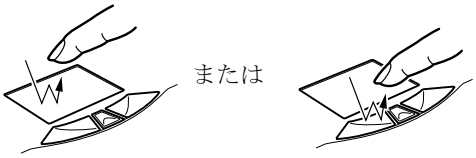
フラットポイントの使いかた

● クリック



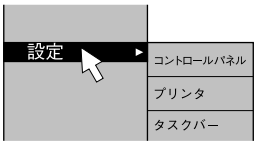
操作面を 1 回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。
また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック



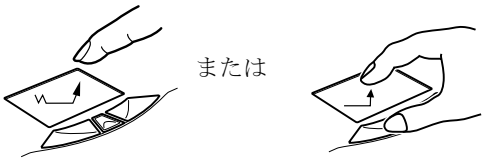
操作面を 2 回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで調節できます。

● ポイント



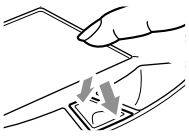
マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く 2 回タップします。2 回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

● スクロール



戻る：向こうに押す
進む：手前に押す

ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に押すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

- 上記のボタンの操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで「右利き用」に設定した場合の操作です。
- タップは、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。
- フラットポイントは、マウスポインタを移動させている場合、指先を持ち上げて異なる場所に降ろしても、画面上のマウスポインタは移動しません。指を降ろした位置から操作面をなぞると、そのなぞった方向に動きます。
- 中央のスクロールボタンは添付の「Alps Pointing-device Driver」をインストールすると使用することができます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

4 キーボードについて

キーボード

キーボードは、コンピュータに対して指示やデータを入力し、実行させるための装置です。キーは大きく分けると、2 種類に分かれます。

：制御キー
：文字キー

テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い（状態表示 LCD に 1 を表示）、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となり、パソコン本体のキーボードのテンキー部は無効となります。

主なキーの名称と働き

+ 記号は、前述のキーを押しながら、後述のキーを 1 回押す動作を表しています。

【Esc】（エスケープ）キー

ソフトウェアの実行中の動作を終了します。

【F1】～【F12】（ファンクション）キー

アプリケーションごとに使い方が決められます。

【Fn】（エフエヌ）キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】＋【F3】	音声出力（内蔵スピーカー、ヘッドホン）の ON/OFF を切り替えます。 本操作をして「ピッ」と音がした場合は ON、音がしない場合は OFF（ミュート）です。
【Fn】＋【F4】	BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（▪▪▶P.93）の項目を「手動」に設定したとき（ご購入時は「自動」に設定）に、フラットポイントの有効と無効を切り替えます（▪▪▶P.73）。
【Fn】＋【F5】	全画面表示と通常表示を切り替えます。
【Fn】＋【F6】	液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。
【Fn】＋【F7】	液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。

POINT

- 【Fn】＋【F6】キーまたは【Fn】＋【F7】キーでのバックライトの明るさの調節は、8 段階に設定できます。

【Fn】＋【F8】	音量を小さくします。
【Fn】＋【F9】	音量を大きくします。

POINT

- 【Fn】＋【F8】キー、【Fn】＋【F9】キーでの音量の調節は、17 段階に設定できます。
- 【Fn】＋【F8】キー、【Fn】＋【F9】キーでの音量の調節は、タスクバーの音量アイコンをクリックして表示される音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を小さくしたり大きくしたりできます。
- 音声入出力時のバランスや音量などは、「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスで設定できます。
  「音量の設定について」（▪▪▶P.127）
- 【Fn】＋【F9】キーで音量を大きくしても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで【Fn】＋【F3】キーを押してください。また「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスの設定がミュート（消音）になっていないか確認してください。
- 音量を大きくして音が割れる場合には、音量を小さくしてください。

【Fn】＋【F10】	外部ディスプレイ接続時に、LCD のみの表示、外部ディスプレイのみの表示、LCD と外部ディスプレイの表示を切り替えます。
【Fn】＋ SUS/RES スイッチ	Windows95 の場合は、Save To Disk 機能が働きます。

【Space】（スペース）キー

1 文字分の空白を入力するのに使います（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

【↑】【↓】【←】【→】（カーソル）キー

カーソルを移動するときに使います。

【Enter】（エンター）キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。改行したり、コマンドを実行したりします。

【Ctrl】（コントロール）キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

【Shift】（シフト）キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Alt】（オルト）キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

【Caps Lock】（キャップスロック）キー

アルファベットを入力するときに使用します。【Shift】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

【Num Lk】（ニューメリカルロック）キー

テンキーモードにするときに押します。

【Scr Lk】（スクロールロック）キー

アプリケーションごとに機能が異なります。【Fn】キーと一緒に押します。

【Prt Sc】（プリントスクリーン）キー

画面のハードコピーを取るときに、【Fn】キーと一緒に押します。

【Pause】（ポーズ）キー

画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。

【Break】（ブレーク）キー

アプリケーションごとに機能が異なります。

【Insert】（インサート）キー

文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Delete】（デリート）キー

文字を削除するときに押します。

また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

【Home】（ホーム）キー

カーソルを行の最初に移動するときに、【Fn】キーと一緒に押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

【End】（エンド）キー

カーソルを行の最後に移動するときに、【Fn】キーと一緒に押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

【Pg Up】（ページアップ）キー

前の画面に切り替えるときに、【Fn】キーと一緒に押します。

【Pg Dn】（ページダウン）キー

次の画面に切り替えるときに、【Fn】キーと一緒に押します。

【Back Space】（バックスペース）キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

【SysRq】（システムリクエスト）キー

アプリケーションでサポートしている場合、キーボードをリセットするときなどに使用します。【Fn】キーと一緒に押します。

【 】（ウィンドウズ）キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

【 】（アプリケーション）キー

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。また、マウスの右クリックと同じ役割をします。

5 電源を入れる

電源を入れるときの注意

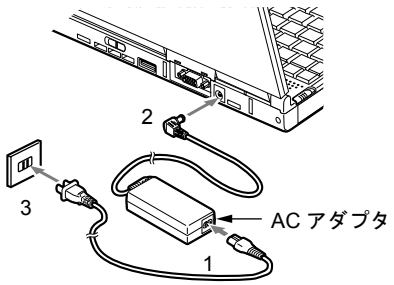
- 電源を入れたら、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- モバイルマルチベイに何も取り付けていない状態で電源を入れないでください。故障の原因となります。
- FDD ユニットが接続されているパソコン本体の電源を入れる場合は、フロッピーディスクがセットされていたら、取り出してください。
- AC アダプタなど磁界を発生する機器と FDD ユニット (USB) または FDD ユニット (FMV - NFD324) は離して使用してください。

電源の入れかた

ここでは、本パソコンの通常の電源の入れかたについて説明します。

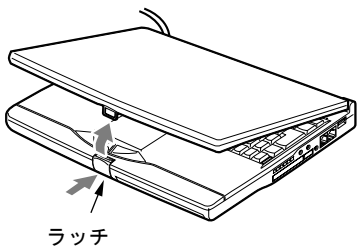
1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタのコードを接続し (1)、パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します (2)。その後、プラグをコンセントに接続します (3)。



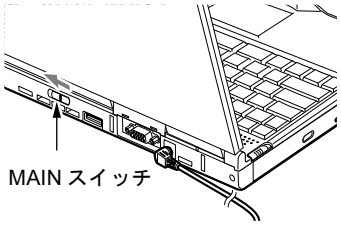
2 液晶ディスプレイを開きます。

前面のラッチを押してロックを外し、液晶ディスプレイに手をそえて持ち上げます。



3 パソコン本体の MAIN スイッチを ON にします。

パソコン本体に電源が入り、POST（自己診断画面）が始まります。また、状態表示 LCD の ⏻ などが点灯します。



重 要

- 次のように設定している場合は、電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じないでください。キーボードからの放熱効果が失われ、本パソコンが故障する原因となることがあります。
  - Windows Me、Windows2000 または Windows98 の設定
    「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスまたは「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細設定」タブまたは「詳細」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「なし」に設定している場合
  - Windows95 または WindowsNT の設定
    BIOS セットアップの「カバークローズ サスペンド」（••▶P.99）を「使用しない」に設定している場合
- 本パソコンに電源が入っている場合は、次の点に注意してください。
  - パソコン本体のキーボードの上に書類などのおおいかぶさる物は置かないでください。
    パソコン本体の放熱がさえぎられ、故障の原因となります。
  - 長時間使用すると、本パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じることがあります。これは、本パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温かくなるためです。故障ではありません。
  - 使用条件によっては、本パソコンの底面が高温になる場合があります。ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。
  - 空冷用ファンの前に物を置いたりして、空冷用ファンをふさがないでください。本パソコンの故障の原因となります。

POINT

- POST とは、Power On Self Test（パワーオンセルフテスト）の略で、パソコン内部に異常がないか調べる自己診断テストです。本パソコンの電源が入ると自動的に行われ、OS の起動直前に完了します。
- POST 中に電源を切ると、自己診断テストが異常終了したと診断されます。本パソコンでは、自己診断テストの異常終了回数をカウントしており、3 回続いた場合、4 回目の起動時にエラーメッセージ（••▶P.108）を表示します。POST 中は、不用意に電源を切らないでください。

6 電源を切る

電源を切るときの注意

- MAIN スイッチを OFF にする場合は、OS を終了させるか休止状態にして、状態表示 LCD（▪▪▶P.23）の SUS/RES 表示（⏻）が消えたことを確認してから行ってください。
- サスペンド時に MAIN スイッチを OFF にする場合は、本パソコンをいったんレジュームさせ、データの保存をし、OS を終了させてから行ってください。
- 一度電源を切り、再度電源を入れる場合は、10 秒ほど待ってから操作してください。
- 本パソコンの電源を切る場合は、あらかじめ CD やフロッピーディスクなどを取り出してください。
- 次の場合は MAIN スイッチを OFF にしてください（▪▪▶P.35、P.37）。
  - 本パソコンを携帯するとき
  - 周辺機器の取り付けや取り外しを行うとき
  - バッテリ残量が少ないときや節電したいとき

電源の切りかた

Windows Me、Windows98、または Windows95 の場合

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

2 Windows Me の場合は「終了」、Windows98 の場合は「電源を切れる状態にする」、Windows95 の場合は「コンピュータの電源を切れる状態にする」が選択されていることを確認して、「OK」または「はい」をクリックします。

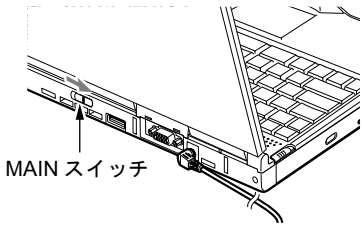
OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LCD の ⏻ が消えます。

POINT

- 手順2のあとMAINスイッチをOFFにしなければ、次回電源を入れるときはSUS/RESスイッチを押せば電源が入ります。
- 手順 1 で表示される画面で、「再起動」、「再起動する」または「コンピュータを再起動する」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- Windows Me または Windows98 では、手順 1 で表示される画面で、「スタンバイ」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります（▪▪▶『ソフトウェアガイド』参照）。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（○側）へスライドさせます。



POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

Windows2000 の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

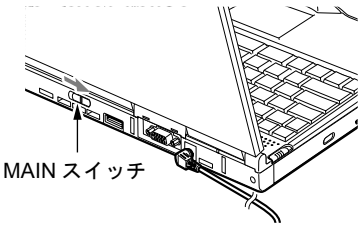
電源が自動的に切れます。

POINT

- 手順2のあとMAINスイッチをOFFにしなければ､次回電源を入れるときはSUS/RESスイッチを押せば電源が入ります。
- 手順 1 で表示される画面で、「再起動」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- 手順 1 で表示される画面で、「スタンバイ」または「休止状態」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- 次のように電源を切ることもできます。
  1【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2「シャットダウン」をクリックします。
  「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  3「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
  電源が自動的に切れます。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（O側）へスライドさせます。



POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

WindowsNT の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2 「コンピュータをシャットダウンする」が選択されていることを確認して、「はい」をクリックします。

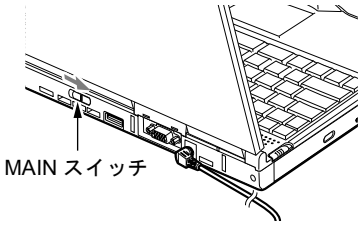
状態表示 LCD の ⏻ が消え、自動的に本パソコンの電源が切れます。

POINT

- 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されて、電源が自動的に切れない場合があります。その場合は、MAIN スイッチを OFF にして電源を切ってください。また、その場合は電源切断用 HAL がインストールされていない可能性があります。電源切断用 HAL をインストールしてください（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- 電源切断用 HAL で電源を切り、MAIN スイッチを OFF にしていない場合は、次回電源を入れるときは、SUS/RES スイッチを押せば電源が入ります。
- 手順 2 で表示される画面で、「コンピュータを再起動する」を選択すると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、メモリに入っている情報をいったん消して、再びフロッピーディスクやハードディスクなどから OS を読み込み直すことです。
- 次のように電源を切ることもできます。
  1【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  2「WindowsNT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン」をクリックします。
  3「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン後、電源を切る」を選択して「OK」をクリックします。
  電源が自動的に切れます。

3 MAIN スイッチを OFF にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（O側）へスライドさせます。



POINT

- このあと、本パソコンを長期間使用しない場合は、AC アダプタやバッテリパックを取り外してください。

7 リセットする

リセットの方法

アプリケーションをインストールした場合や、使用中のソフトウェアが何らかの理由で動かなくなった場合などに、リセットを行います。

POINT

- リセットを行うと、メモリ内のデータが消失します。リセットを行う前に、必要なデータは保存してください。

Windows Me、Windows98、または Windows95 の場合

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

2 「再起動」、「再起動する」、または「コンピュータを再起動する」を選択して「OK」または「はい」をクリックします。

本パソコンがリセットされます。

POINT

- 上記のようにリセットができない場合は、次のようにリセットを行ってください。
  1【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されたら、メッセージに従って、操作してください。

Windows2000 の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- 次のようにリセットすることもできます。
  1【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2「シャットダウン」をクリックします。
  「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  3「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
  本パソコンがリセットされます。

WindowsNT の場合

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

2 「コンピュータを再起動する」を選択して「はい」をクリックします。

本パソコンがリセットされます。

POINT

- 次のようにリセットすることもできます。
  1【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
  2「WindowsNT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン」をクリックします。
  3「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されたら、「シャットダウン後、再起動する」を選択して「OK」をクリックします。本パソコンがリセットされます。

8 バッテリについて

本パソコンは、携帯での使用を考慮して、AC アダプタの他にバッテリからも電源を供給することができます。

充電する

1 AC アダプタを接続します。

ACアダプタを接続すると充電が始まり、状態表示LCDにバッテリ充電表示（ の ）と、そのときのバッテリ残量が表示されます。

2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、AC アダプタを取り外します。

POINT

- 充電時間については、「仕様一覧」（▶P.134）をご覧ください。
- 本パソコンご購入時、1ヶ月以上充電していない場合、またはバッテリ残量が少ない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- バッテリの充電は、バッテリ充電表示（ ）が消え、左端のバッテリ残量表示が点滅（ ）から点灯（ ）に変わると完了です。バッテリの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- バッテリ残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- MAINスイッチをOFFにしている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示LCDの全表示が消灯します。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（ が点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。
- 増設バッテリを取り付けた場合、充電は並行して行われます。

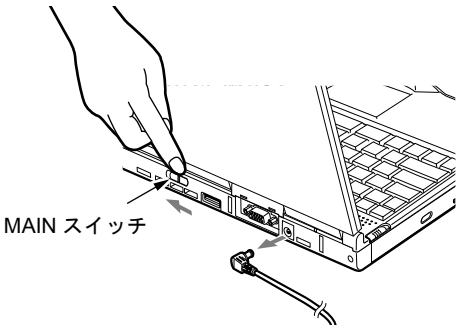
バッテリで使う

ここでは、本パソコンをバッテリで使用する場合について説明します。

1 AC アダプタを取り外し、MAIN スイッチを ON にします。

MAIN スイッチを矢印の方向（ | 側）へスライドさせます。

が点灯します。



POINT

- MAIN スイッチが ON のときは、SUS/RES スイッチを押してください。
- 周囲の温度が低いと、バッテリ稼動時間は短くなります。
- バッテリ稼動時間については、「仕様一覧」（▶P.134）をご覧ください。
- バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。
- 増設バッテリを取り付けた場合、放電は並行して行われます。

残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LCD のバッテリ残量表示で確認できます。

バッテリの残量表示

約 100%～約 76%のバッテリ残量を示します。

約 75%～約 51%のバッテリ残量を示します。

約 50%～約 26%のバッテリ残量を示します。

約 25%～約 13%のバッテリ残量を示します（充電中は、0%～約 25%のバッテリ残量を示します)。

LOW バッテリ状態（約 12%以下のバッテリ残量）を示します。▮が点滅します。Windows95、WindowsNT の場合は、警告音が鳴ります。

バッテリ切れ状態（0%のバッテリ残量）を示します。

POINT

- 本パソコンの動作中に充電する場合は、パソコン本体の稼動状態により、充電時間が異なります。パソコン本体の負荷が軽い場合は充電時間は短くなりますが、負荷が重い場合は充電時間が長くなります。また、著しく負荷が重い場合は、負荷が軽くなるまで充電が中止されます。
- バッテリ残量表示（ ）は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。
- バッテリ残量が90%以上残っている場合は､ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- バッテリ装着表示（ ）の「1」は、内蔵バッテリを示します。

バッテリの異常表示

バッテリが正しく充電できないことを示します。

POINT

- が点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
「内蔵バッテリパックを交換する」（▶P.45）

LOW バッテリ状態

ここでは、本パソコンのバッテリが LOW バッテリ状態になった場合の表示と、その対処方法を説明します。

LOW バッテリ状態の表示

状態表示 LCD のバッテリ残量表示が点滅します（ ）。

POINT

- Windows95、WindowsNT の場合は、LOW バッテリ状態のときに警告音が鳴ります。ただし音量ボリュームを小さくしていると、警告音が聞こえない場合があります。
- スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。
  【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。ピーと音がした場合は ON、音がしない場合は OFF になります。

LOW バッテリ状態の対処

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続するとバッテリが充電されます。

POINT

- LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリ状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にサスペンドします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスペンドしません。

重 要

- Windows Me,Windows2000 または Windows98 では、バッテリ残量が約3%になったら、自動的にサスペンドするように設定されています。「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスまたは「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「アラーム」タブでは「バッテリ消耗の警告」、または「バッテリ切れアラーム」の次の項目の設定を変更しないでください。
  - 「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
  - 「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリ消耗の警告の動作」ダイアログボックスまたは「バッテリ切れのアラームの動作」ダイアログボックスの次の項目
    - 「電源レベル」の「警告後のコンピュータの動作」または「アラーム後のコンピュータの動作」
    - 「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」

  これらの項目をクリックしてチェックにした状態で使用すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されません。また、パソコン本体が故障する原因となります。

バッテリの注意

⚠警告

感電

● バッテリは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは、使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

● **放電について**
- バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間（約 1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

● **寿命について**
- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。
- バッテリの稼動時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。

● **廃棄について**

バッテリを廃棄する場合は、バッテリがショートしないようバッテリ端子をテープなどで絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。

● **バッテリ稼動時間を長くするには**

省電力機能を利用します（⋯▶『ソフトウェアガイド』参照）。

● **バッテリ稼動時間が短くなる場合について**
- バッテリ稼動時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼動時間が短くなる場合があります。
- バッテリは、長期間使用していると充電容量が低下し、充電能力が落ちてきます。その場合は新しいバッテリと交換してください。

● **次のような場合は AC アダプタを使用してください**
- ハードディスクや CD、スーパーディスクなどを頻繁に使用するとき
- LAN やモデムを頻繁に使用するとき
- 本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリパックの交換について説明します。

⚠警告

感電

- 内蔵バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

POINT

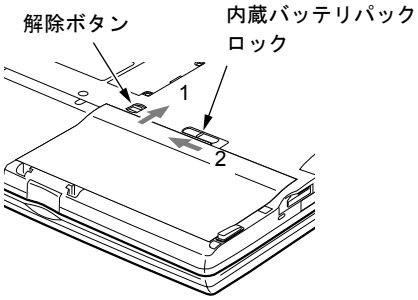
- 新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をお買い求めください。
  品名：内蔵バッテリパック
  型名：FMVNBP104
  （ご購入元にお問い合わせください）
- 増設バッテリの取り付けや取り外しについては、「モバイルマルチベイユニットを交換する」（▶▶P.62）をご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶▶P.34）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

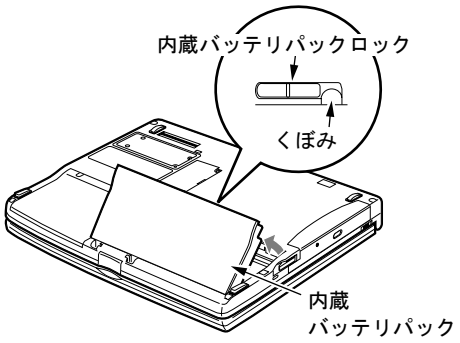
3 ロックを解除します。

本体下面の解除ボタンを矢印方向に完全にスライドさせた状態で（1）、内蔵バッテリパックロックをスライドして（2）ロックを解除します。



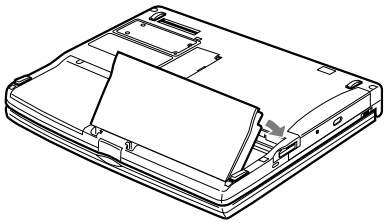
4 内蔵バッテリパックを取り外します。

内蔵バッテリパックロックをスライドしてできたくぼみに指をかけ、内蔵バッテリパックを取り外します。



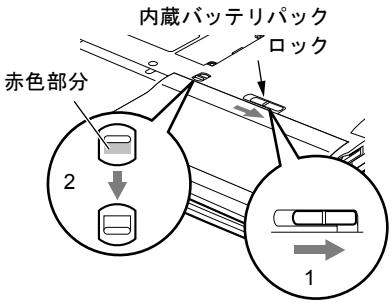
5 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、しっかりと押し込みます。



6 内蔵バッテリパックロックをカチッと音がするまでスライドします。

内蔵バッテリパックロックを右端までスライドさせ（1)、解除ボタンの赤色部分が見えなくなったことを確認します（2)。



第 2 章

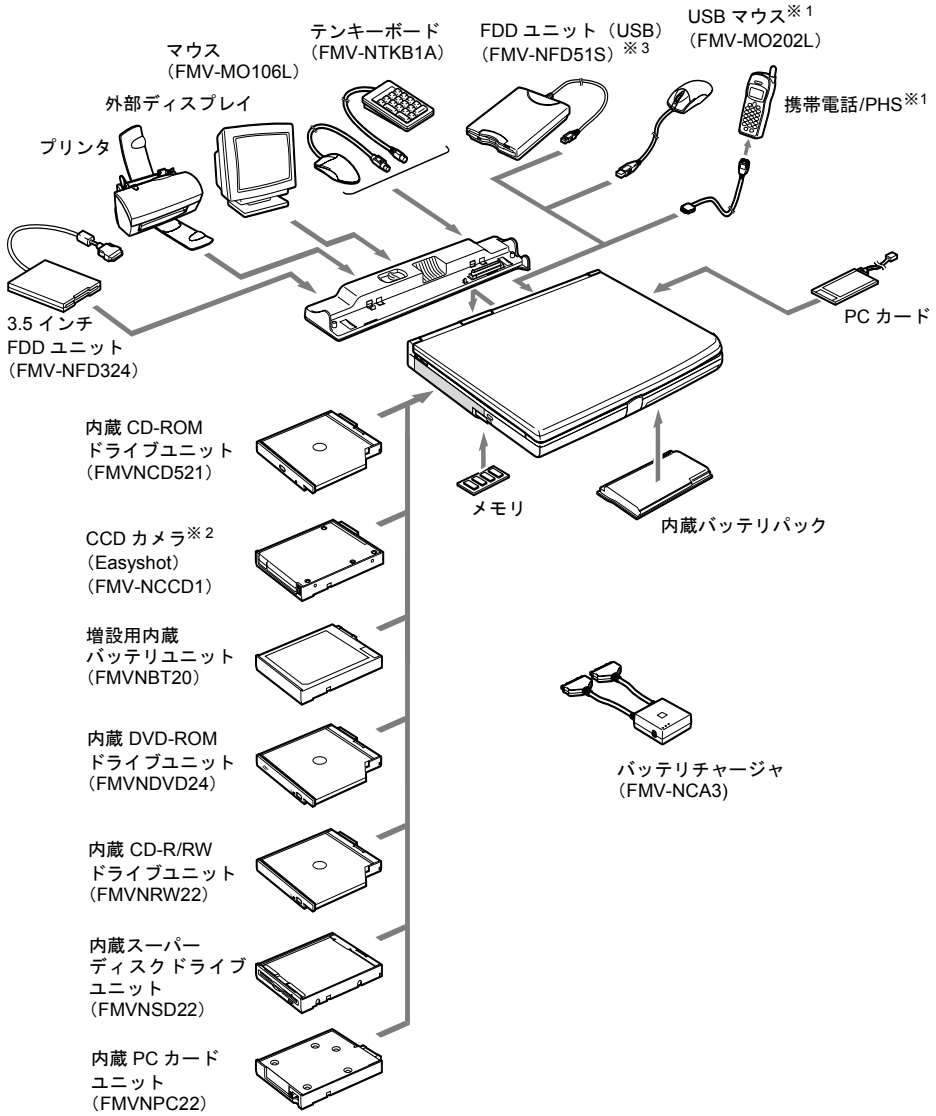
ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかたなどを説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に 48
2 PC カードを使う 50
3 メモリを増やす 56
4 モバイルマルチベイユニットについて 59
5 CD について 63
6 コネクタボックスについて 65
7 内蔵 FAX モデムを使う 67
8 内蔵 LAN を使う 69
9 携帯電話や PHS を接続する 71
10 マウスを使う 72
11 テンキーボードを接続する 76
12 プリンタを接続する 77
13 外部ディスプレイを接続する 79
14 セキュリティについて 81

1　周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器



※1　Windows95 および WindowsNT ではサポートしていません。

※2　・Windows95 および WindowsNT ではサポートしてません。
・カメラ部分はユニットから取り外し、専用ケーブル経由でパソコン本体およびコネクタボックスの USB コネクタに接続して使用することもできます。
・Windows Me、Windows2000 でお使いになる場合は、富士通パソコンホームページ FM WORLD（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。
・Windows95 モデルで他の OS をインストールした場合、および指紋センサーを搭載しているモデルでは、CCD カメラのユニットは使用できません。ただし、ユニットから取り外し、専用ケーブル経由でパソコン本体およびコネクタボックスの USB コネクタに接続して使用することができます。

※3　Windows95 および WindowsNT ではサポートしていません。
FDD ユニット（USB）にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の使用のみサポートしています。

周辺機器について

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**

  パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタや PC カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。
- **周辺機器のマニュアルもご覧ください**

  本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **純正品をお使いください**

  弊社純正のオプション機器については、「システム構成図」をご覧ください。

  他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

  Windows Me、Windows2000 および Windows98 では ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

  また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- **取り付け／取り外し時の注意**

  PS/2 規格のマウス以外の周辺機器の取り付けは、OS のセットアップ終了後に行ってください。OS のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。OS のセットアップについては、『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

重 要

- コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- 複数の周辺機器を取り付ける場合は、１つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 PC カードを使う

PC カードを使うときの注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- カードをこすったりして静電気をおこさないでください。
- 重い物をのせないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

POINT

- 代表的な PC カードには次のようなものがあります。
  - SCSI（スカジー）カード
    SCSI 規格対応のハードディスクや MO（光磁気ディスク）ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。
  - LAN（ラン）カード
    複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。
  - デジタル携帯電話接続カード／ PHS 接続カード
    デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。
- 通信系の PC カードの中には、2 枚同時には使用できないものがあります。PC カードに添付のマニュアルで確認してください。また、LAN 内蔵モデルでは LAN カードが、モデム内蔵モデルではモデムカードが使えない場合があります。
- 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています。12V を使用する PC カードはサポートしていません。

PC カードをセットする

ここでは、PC カードのセットについて説明します。

⚠ 注意

けが

- PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

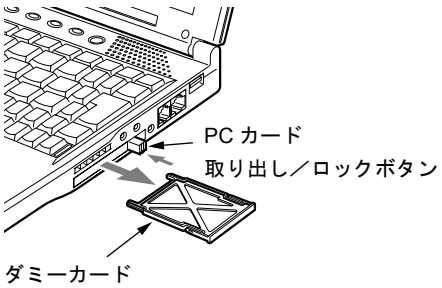
POINT

- PC カードによっては、お使いの OS に関わらず、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。
- Windows2000 および WindowsNT の場合、PC カードのプロパティの画面で表示される PC カードのスロット番号と、状態表示 LCD に表示される PC カードのスロット番号は異なります。
- WindowsNT モデルではパソコン本体の電源を切ってから PC カードをセットしてください。ただし、CardExecutive を使用している場合は、パソコン本体の電源を切らずに PC カードをセットすることができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

1 WindowsNT の場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（••▶P.36）。

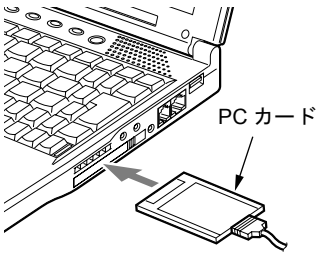
2 PC カードスロットからダミーカードを取り出します。

PC カード取り出し／ロックボタンを起こしてボタンを押し、ダミーカードを取り出します。



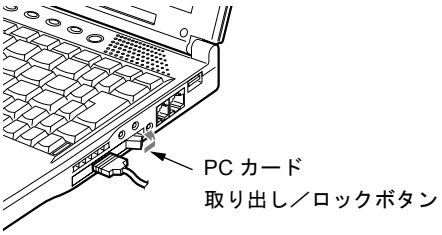
3 PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして PC カードスロットにしっかり差し込みます。



4 PC カードをロックします。

PC カード取り出し／ロックボタンを完全に引き出してから倒し、ロックします。



5 WindowsNT の場合は、AC アダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます（▶P.32）。

6 初めてセットした PC カードの場合は、必要に応じてドライバをインストールします。

PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。PC カードのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールしてください。

POINT

- PC カードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

ここでは、各 OS での PC カードの取り出しかたについて説明します。

POINT

- コード付きの PC カードを取り出す場合、PC カードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

Windows Me または Windows2000 の場合

⚠ 注意

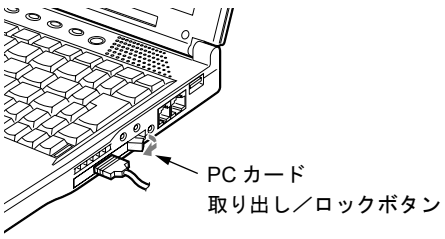
高温

- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

けが

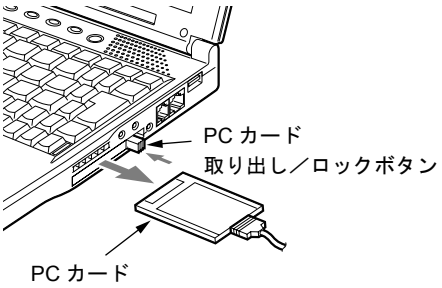
- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1. Windows Me の場合はタスクバーの「ハードウェアの取り外し」アイコン、Windows2000 の場合はタスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。
2. Windows Me の場合は「XXXXXX の停止」、Windows2000 の場合は「XXXXXX を停止します」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。
4. PC カード取り出し／ロックボタンを起こします。



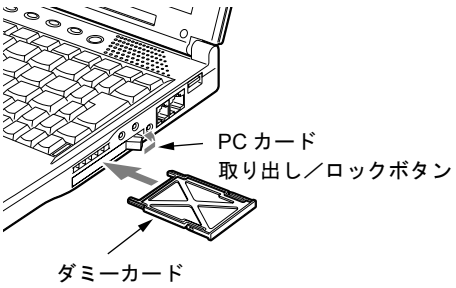
5 PC カードを取り出します。

PC カード取り出し／ロックボタンを押し、PC カードを取り出します。



6 ダミーカードをセットします。

ダミーカードを PC カードスロットにしっかり差し込み、PC カード取り出し／ロックボタンを完全に引き出してから手前に倒し、ロックします。



Windows98 または Windows95 の場合

⚠注意

高温
- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3のあと、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

けが
- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 タスクバーの「PC カード」アイコンをクリックします。

POINT

- タスクバーの「PC カード」アイコンをダブルクリックしたり、コントロールパネルの「PC カード」アイコンをクリックして表示される「PC カード（PCMCIA）のプロパティ」ダイアログボックスで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXXXX の中止」をクリックします。

XXXXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
PC カードの動作が停止し、次の画面が表示されます。

POINT

- PC カードによっては、「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、パソコン本体の電源を切ってから Windows Me または Windows2000 の場合の手順 4 へ進んでください。

3 「OK」をクリックします。

4 PC カードを取り出します。

Windows Me または Windows2000 の場合の手順 4~6 を参照し（▪▪▶P.53）、PC カードを取り出します。

WindowsNT の場合

⚠ 注意

高温
- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっている場合があります。PC カードを取り出すときは、手順 1 のあと、しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となることがあります。

けが
- PC カードを取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

POINT

- WindowsNT モデルで CardExecutive を使用している場合は、パソコン本体の電源を切らずに PC カードを取り出すことができます（▪▪▶ 『ソフトウェアガイド』参照）。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▪▪▶P.36）。

2 PC カードを取り出します。

Windows Me または Windows2000 の場合の手順 4~6 を参照し（▪▪▶P.53）、PC カードを取り出します。

3 メモリを増やす

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

メモリを交換する

ここでは、本パソコンに搭載されているメモリの交換について説明します。

⚠警告

感電

- メモリを交換する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

誤飲

- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。
  万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠注意

故障

- メモリの交換を行うときは、端子や IC などに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

故障

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障

- メモリの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。Windows Me、Windows2000 または Windows98 のスタンバイや休止状態、Windows95 または WindowsNT のサスペンドや Save To Disk の状態で行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

重 要

- 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズ（M2）に合ったプラスのドライバー 1 番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

POINT

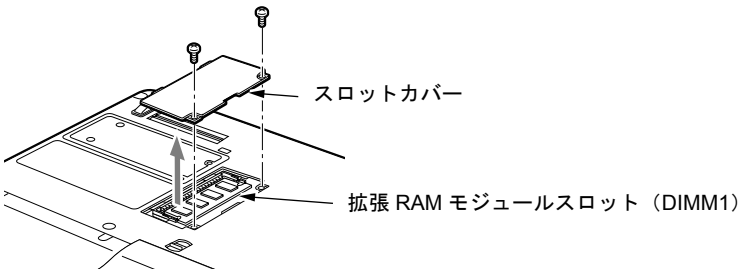
- メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS　セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます（▶P.101）。「64MB SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、拡張 RAM モジュールが故障または不良です。弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。
- メモリを拡張する場合は、工場出荷時に取り付けられているメモリを大容量のものに交換してください。
- パソコン本体の電源を入れる前に必ずメモリを取り付けておいてください。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.34）。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

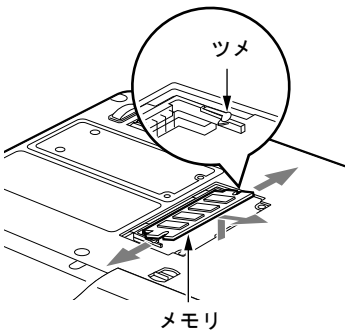
3 ネジ(2ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

パソコン本体下面にある拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り外します。



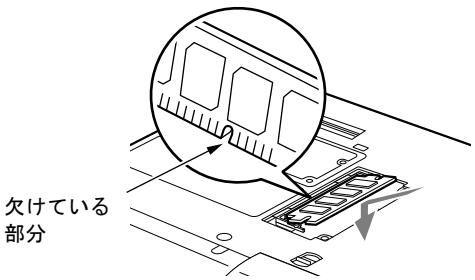
4 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



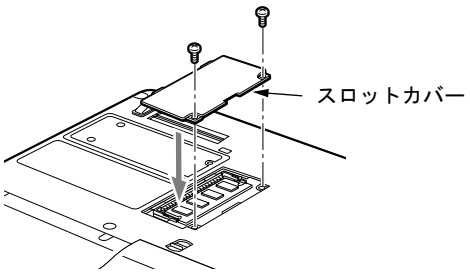
5 新しいメモリを取り付けます。

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。



6 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。

手順 3 で外したカバーを取り付けます。



重 要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合はMAINスイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

4 モバイルマルチベイユニットについて

POINT

- 本パソコンで使用できるユニットについては、「使用できる周辺機器」（P.48）をご覧ください。

モバイルマルチベイユニットを使うときの注意

故障を防ぐため、マルチベイユニットをお使いになる場合は、次の点に注意してください。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット、内蔵 DVD-ROM ドライブユニット、内蔵 CD-R/RW ドライブユニット、内蔵スーパーディスクドライブユニットは、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れるおそれがあります。
- 内蔵スーパーディスクドライブユニットの取り扱いかたによっては、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。重要なデータは必ずバックアップをとってください。
- 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターへご連絡ください。
- 汚れは、やわらかい布でからぶきするか、やわらかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 磁石や磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

モバイルマルチベイユニットを交換する前に

OS によっては、電源が入っているときなどにユニットの交換ができる場合があります。

POINT

- 内蔵 PC カードユニットを取り外す前に、PC カードスロットから PC カードを取り出してください（••▶P.53）。
- CCD カメラを取り外す前に、CCD カメラを使うアプリケーションを終了してください。
- 増設用内蔵バッテリユニットを取り外す前に、内蔵バッテリの残量が十分にあることを確認してください。内蔵バッテリの残量が十分でない場合は、AC アダプタを取り付けてから行ってください。

Windows Me または Windows98 モデルの場合

ご購入時は、電源を切ってからユニットを交換してください。添付の Softex BayManager をインストールすると、電源が入っているときでもユニットを交換できます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

WindowsNT モデルの場合

ご購入時は、電源を切ってからユニットを交換してください。添付の Portables Suite の Notedock をインストールすると、電源が入っているときでもユニットを交換できます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

Windows95 の場合

ユニットを交換する前に、必ず電源を切ってください（••▶P.34）。

Windows2000 の場合

使用するユニットによって、操作が異なります。

- 内蔵 PC カードユニット、CCD カメラ、増設用内蔵バッテリユニット、およびモバイルマルチベイカバーは、電源が入っているときに交換できます。
  ただし、内蔵 PC カードユニットの中に PC カードがセットされている場合は、内蔵 PC カードユニットを取り外す前に、PC カードスロットから PC カードを取り出してください（••▶P.53）。
- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット、内蔵 CD-R/RW ドライブユニット、内蔵 DVD-ROM ドライブユニット、および内蔵スーパーディスクドライブユニットは、次の操作をすると電源が入っているときに交換できます。

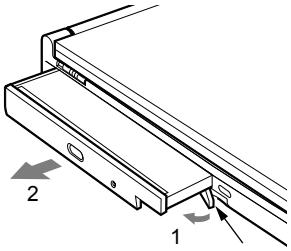
1. パソコン本体がサスペンドしている場合は、SUS/RESスイッチを押してレジュームさせます。
2. タスクバーに「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンが表示されている場合は、アイコンをクリックします。
3. 「XXX を停止します」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。
5. ユニットを取り外します（••▶P.62 の手順 1）。
6. SUS/RES スイッチを押します。
   パソコン本体がサスペンドします。
7. ユニットを取り付けます（••▶P.62 の手順 2）。
8. もう一度 SUS/RES スイッチを押して、パソコン本体をレジュームします。

モバイルマルチベイユニットを交換する

ここでは、モバイルマルチベイのユニットの交換方法について説明します。

1 ユニットを取り外します。

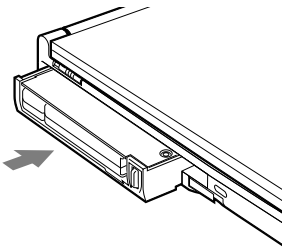
モバイルマルチベイユニット取り外しレバーを起こし（1)、マルチベイユニットを取り外します（2)。



モバイルマルチベイユニット
取り外しレバー

2 新しいユニットを取り付けます。

ユニットのコネクタを奥にして、しっかり押し込みます。



重 要

- 本パソコンをお使いになるときは、必ずモバイルマルチベイにユニットを取り付けてください。何も取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。
- モバイルマルチベイの取り外しレバーは、モバイルマルチベイのユニットを取り外す場合のみ起こしてください。ロックが解除されることがあります。誤ってレバーを操作してしまった場合は、いったんパソコン本体の電源を切り、ユニットを取り外し、再度取り付けてください。

POINT

- 内蔵スーパーディスクドライブユニットにセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、BIOS セットアップの設定を変更してください（▶P.91)。
  - 「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」: 使用しない
  - 「詳細」メニューの「その他の内蔵デバイス設定」の「フロッピーディスクコントローラ」: 使用しない

  設定を変更すると、FDD ユニット（FMV-NFD324）は使用できません。
- FDD ユニット（FMV-NFD324）と内蔵スーパーディスクドライブユニットの両方を使用する場合は、BIOS セットアップの設定を変更する必要はありません。この場合、FDD ユニット（FMV-NFD324）が A ドライブになります。

5 CD について

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、CD を使用するときは、次の点に注意してください。

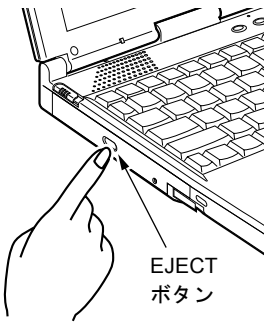
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、乾いた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどは使用しないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

CD をセットする／取り出す

ここでは、CD のセット／取り出しについて説明します。

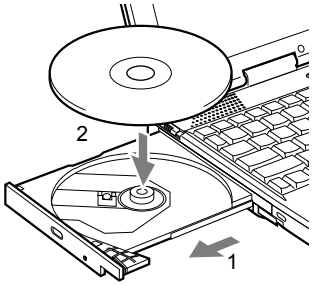
1 EJECT ボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

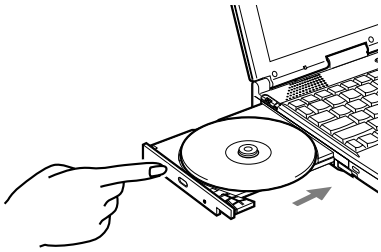


2 トレーを静かに引き出し (1)、CD をセットします (2)。

トレーを支えながら、CD のレーベル面を上にして、トレーの中央の突起にパチンと音がするようはめ込みます。



3 トレーを静かに押し込みます。

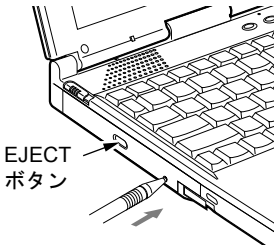


重 要

- CD をセットする場合は、トレー中央の突起に CD の穴を合わせ、パチンと音がするようにしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD がドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、および CD を破損する原因となることがあります。

POINT

- CD や DVD はデータの読み込みの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。
- 本パソコンの内蔵 CD ドライブユニットは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です。
- シールを貼った CD など、重心の偏った媒体を使用すると、ユニットに振動が発生し、十分な性能が出ない場合があります。
- トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャッという音がするまでトレーを引き出し、再度押し込んでください。
- パソコン本体の電源が切れた状態では、トレーが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレーを閉めてください。
- CD を取り出す場合も、セットと同じ手順で行います。
- 何らかの原因で、EJECT ボタンを押してもトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」ダイアログボックスの CD アイコンを右クリックして「取り出し」をクリックしてください。
  それでも出ない場合は、CD ドライブユニット前面の EJECT ボタンの右側の穴をボールペンの先などでつついて、トレーを引き出してください。



6 コネクタボックスについて

ここでは、コネクタボックスについて説明します。

重 要

- コネクタボックスの外部ディスプレイコネクタは、パソコン本体の各コネクタとは向きが逆になっています。
- コネクタボックス接続時には、必ずパソコン本体のLANコネクタからLANケーブルを取り外してください。破損するおそれがあります。
- コネクタボックスは、パソコン本体の状態にかかわらず取り付け／取り外しが行えます。ただし、コネクタボックスの FDD ユニットコネクタ（▶P.22）に FDD ユニットを接続している場合は、パソコン本体の電源を切ってから、取り付け／取り外しを行ってください。
- コネクタボックスに接続している周辺機器の中には、電源が入っている状態でコネクタボックスの取り付け／取り外しを行うと、動作が不安定になるものがあります。この場合はパソコン本体の電源を切ってから、コネクタボックスの取り付け／取り外しを行ってください。

コネクタボックスを取り付ける

ここでは、コネクタボックスの取り付けについて説明します。
パソコン本体背面に周辺機器を取り付けている場合は、周辺機器を取り外しておいてください。

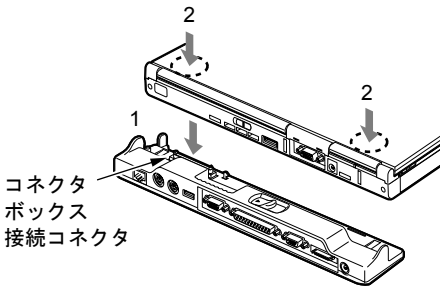
⚠注意

けが

- パソコン本体にコネクタボックスを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
  けがの原因となることがあります。

1 パソコン本体下面にコネクタボックスを取り付けます。

コネクタの位置を合わせてパソコン本体を水平に降ろし（1）、下図の部分を軽く押さえて（2）、コネクタボックスにしっかりと取り付けます。



重 要

- コネクタボックスに周辺機器を取り付ける場合、および取り外す場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
- 本パソコンを持ち運ぶ場合は、コネクタボックスを必ず取り外してください。コネクタボックスを接続した状態で本パソコンを持ち運ぶと、パソコン本体およびコネクタボックスのコネクタが破損するおそれがあります。

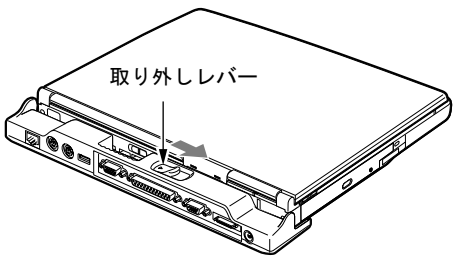
コネクタボックスを取り外す

ここでは、コネクタボックスの取り外しについて説明します。

1 コネクタボックスに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。

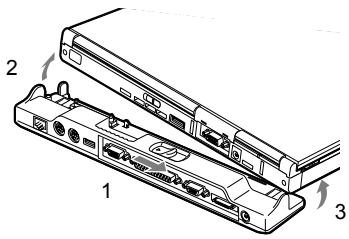
2 コネクタボックスのロックを外します。

コネクタボックスの取り外しレバーをスライドさせて、ロックを外します。



3 コネクタボックスを取り外します。

取り外しレバーをスライドさせたまま（1）コネクタボックスの接続コネクタ側からパソコン本体を持ち上げ（2）、コネクタボックスを取り外します（3）。



7　内蔵 FAX モデムを使う

接続について

本パソコンは、モデルにより V.90 対応の FAX モデムが内蔵されており、MNP Class 4/5 および ITU-T V.42/V.42bis によるエラーフリーの通信が快適に行えます。また、モデムとしての機能に加え、T.30(G3)FAX の機能を持ち、FAX の送受信を行えます。

⚠警告

- モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

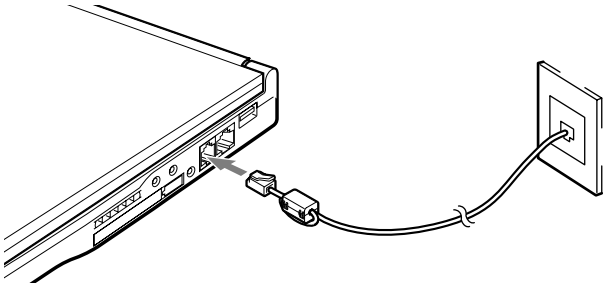
- 近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタやモジュラーケーブルを取り外してください。
  そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

⚠注意

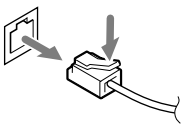
- モジュラーコネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。

1　パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.34）。

2 パソコン本体のモジュラーコネクタ（左側）と電話回線を、モジュラーケーブルで接続します。

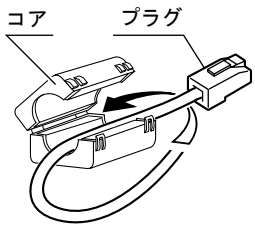


POINT

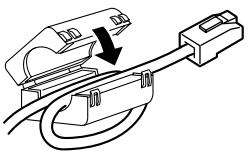


- 内蔵モデムについて...（▶『内蔵モデム取扱説明書』参照）
- モジュラーケーブルを誤って LAN コネクタに接続しないでください。故障の原因となることがあります。
- モジュラーコネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。破損の原因となります。
- モデムを使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。
- アプリケーションを起動したままインターネットに長時間接続していると、本パソコンの CPU に高い負荷がかかり、内蔵モデムでの通信が切断される場合があります。このような場合は、ブラウザやメールソフト以外のアプリケーションを終了してから、もう一度インターネットに接続してください。
- モデムモデル（モデムのみ内蔵したモデル）の FAX モデムを使用する場合は、不要電波の輻射を軽減させるために、モジュラーケーブルに添付のコアを取り付けてください。また、コアを取り付けた側のプラグをパソコン本体に差し込んでください。

  1 モジュラーケーブルのプラグのすぐうしろで、ケーブルをコアに1回巻き付けます。



  2 コアを閉じます。
  コアを閉じる際に、ケーブルをはさみこまないよう注意してください。



8　内蔵 LAN を使う

接続について

本パソコンは、モデルにより LAN デバイスが内蔵されており、100BASE-TX による IEEE802.3u に準拠した高速 LAN システムへ接続することができます。また、従来の 10BASE-T による LAN システムへ接続することも可能です。

⚠警告

感電

- LAN ケーブルを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

感電

- 近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタや LAN ケーブルを取り外してください。
  そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

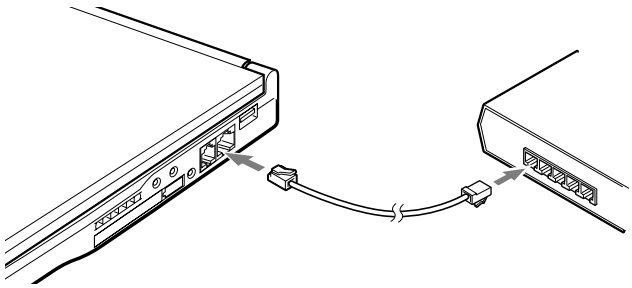
⚠注意

感電

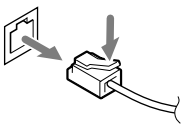
- LAN コネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。

1　パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶P.34）。

2　パソコン本体の LAN コネクタ（右側）とネットワークを、LAN ケーブルで接続します。



POINT



- LAN 機能について...（••▶『ソフトウェアガイド』参照）
- LAN　ケーブルを誤ってモジュラーコネクタに接続しないでください。故障の原因となることがあります。
- コネクタボックス接続時には、必ずパソコン本体のLANコネクタから LAN ケーブルを取り外すしてください。破損の原因となります。
- LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。破損の原因となります。
- LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。
- コネクタボックス接続時には、パソコン本体の LAN コネクタはお使いになれません。コネクタボックスの LAN コネクタをお使いください。

9　携帯電話や PHS を接続する

携帯電話や PHS の接続について（Windows95 および WindowsNT ではサポート外）

本パソコンは、USB コネクタに別売の携帯電話接続ケーブルなどで携帯電話や PHS を接続し、移動体通信を行うことができます。
ここでは、携帯電話の接続について説明します。

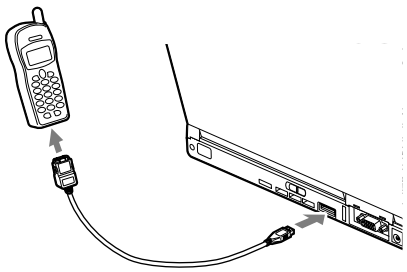
⚠ 注意

故障

- ケーブルは本書および「ドライバーズ CD」内の「Fjusb」フォルダにある readme.txt をよくお読みになり、正しく接続してください。
  誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

1　携帯電話または PHS を接続します。

接続ケーブルで、携帯電話や PHS とパソコン本体の USB コネクタを接続します。
このあと、接続ケーブルのドライバをインストールします（▶『ソフトウェアガイド』参照）。



POINT

- USB コネクタで接続する場合は、「Fjusb」フォルダにある readme.txt を必ずお読みください。
- お使いになれる接続ケーブルは以下のとおりです。
  - 携帯電話接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101）
  - PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL102）
  - PHS 接続用 USB ケーブル（H" 対応）（FMV-CBL103）
  - cdmaOne 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL104）

  なお、別売のケーブルにドライバ CD が添付されている場合がありますが、添付の CD は使用しないでください。
- 各コネクタを接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- 携帯電話または PHS からケーブルを取り外す場合は、必ずコネクタの両側、または上側のボタンを押しながら取り外してください。破損の原因となります。
- 本パソコンには、デジタル携帯電話接続カード、および PHS 接続カードをセットすることもできます。接続カードについては、接続カードのマニュアルをご覧ください。

10 マウスを使う

PS/2 マウスの接続

本パソコンは、コネクタボックスのマウスコネクタに、PS/2 規格のマウスを接続することができます。

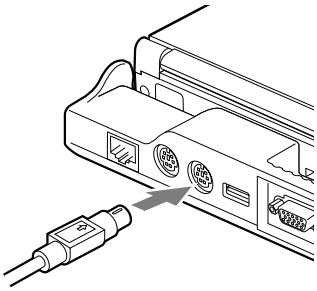
1 パソコン本体の電源を切るか（▶P.34）、サスペンドさせます。

2 コネクタボックスを取り付けます。

「コネクタボックスについて」（▶ P.65）

3 マウスを接続します。

マウスをコネクタボックスのマウスコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が上側になるように接続してください。



POINT

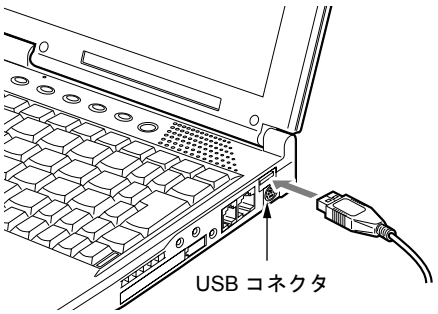
- PS/2 規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。
- フラットポイントと併用する場合や、ホットプラグ機能については、BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で設定します（▶P.93）。

USB マウスの接続（Windows95 および WindowsNT ではサポート外）

本パソコンは、USB コネクタに別売の USB マウス（FMV-MO202L）を接続できます。

1 本パソコンの USB コネクタにマウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
  なお取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。
- USB マウスを接続してもフラットポイントは無効になりません。フラットポイントを無効にする場合は、「フラットポイントを無効にするには」をご覧ください。
- MS-DOS モードでは USB マウスは無効です。

フラットポイントを無効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、フラットポイントと USB マウスの両方が有効になります。USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、次のように設定してください。

1 BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」に設定します。

「BIOS セットアップの操作のしかた」（▶P.85）

2 Windows が起動したら、【Fn】キーを押しながら【F4】キーを押します。

キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
Windows Me モデル、Windows2000 モデルまたは Windows98 モデルでは、フラットポイントが有効の場合は「Internal pointing device:Enabled」、フラットポイントが無効の場合は「Internal pointing device:Disabled」と画面に表示されます。

重 要

- フラットポイントを無効にする場合は、必ずマウスを接続してください。

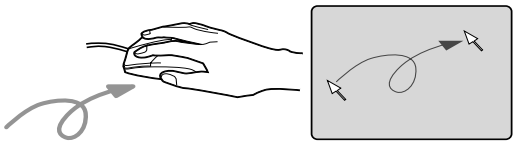
POINT

- 【Fn】キーを押しながら【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】キーを押しながら【F4】キーを押して切り替えてください。
- Windows Me、Windows98 の「電源の管理のプロパティ」、または Windows2000 の「電源オプションのプロパティ」に「BATTERYAID（2/2）」タブが表示されていない場合は、「Internal pointing device:Enabled」などは画面に表示されません。
- BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」（••▶P.93）の項目を「常に使用しない」に設定すると、フラットポイントは常に無効になります。

マウスの使いかた

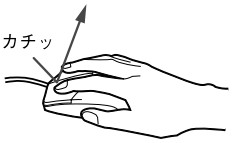
マウスの動かしかた

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



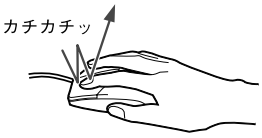
ボタンの操作

● クリック



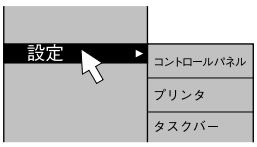
マウスの左ボタンを1回カチッと押します。
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック



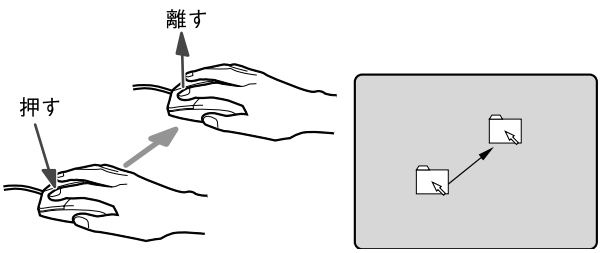
マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。

● ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

POINT

- 上記のボタンの操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで「右利き用」に設定した場合の操作です。

11 テンキーボードを接続する

本パソコンは、コネクタボックスの拡張キーボードコネクタに、PS/2 規格のテンキーボードなどを接続することができます。ここでは、テンキーボードを接続する場合について説明します。

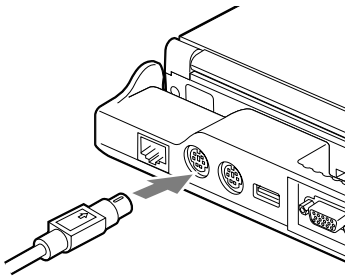
1 パソコン本体の電源を切るか（••▶ P.34）、サスペンドさせます。

2 コネクタボックスを取り付けます。

「コネクタボックスについて」（••▶ P.65）

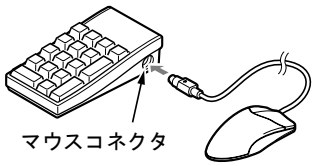
3 テンキーボードを接続します。

テンキーボードをコネクタボックスの拡張キーボードコネクタに接続します。このとき、コネクタに刻印されている矢印が上側になるように接続してください。

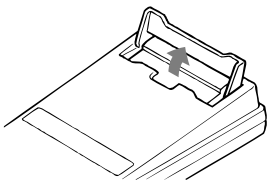


POINT

- テンキーボードは、パソコン本体がテンキーモードの場合のみ使用できます。
  「テンキーモードについて」（••▶P.28）
- テンキーボードのマウスコネクタにマウスを接続することができます。



- テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。



- 拡張キーボードコネクタには、101 キーボード、OADG キーボード、JIS キーボード、親指シフトキーボードも接続できます。
- 親指シフトキーボードを使うには、弊社製日本語入力システムの OAK V5.0 以降が必要です。お使いになる OS に合わせてお使いください。

12 プリンタを接続する

ここでは、コネクタボックスのパラレルコネクタに、プリンタを接続する場合について説明します。
プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。

POINT

- USB 接続に対応したプリンタの場合、USB コネクタに接続することもできます（••▶ P.19、P.21）。

プリンタを接続する

⚠ 警告

感電

- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

⚠ 注意

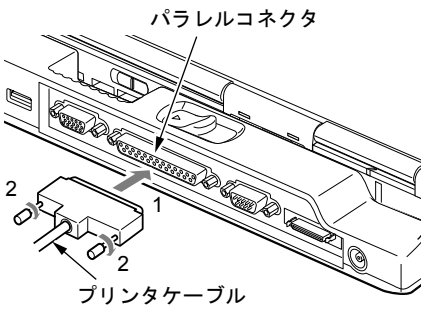
故障

- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
  誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（••▶ P.34）。

2 コネクタボックスを取り付けます。
「コネクタボックスについて」（••▶ P.65）

3 コネクタボックスのパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。
コネクタは、正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み（1）、プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください（2）。



4 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。

5 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

6 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

7 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

プリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバのインストールを行ってください。

POINT

- プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
  また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。詳しくは、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

13 外部ディスプレイを接続する

外部ディスプレイを接続する

本パソコンには、CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。
ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠警告

感電

- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  感電の原因となります。

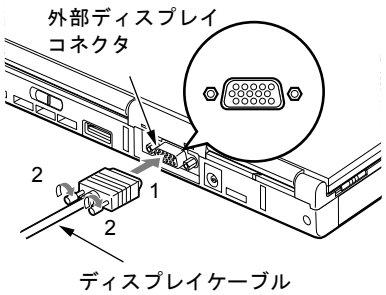
⚠注意

故障

- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
  誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（▶▶ P.34）。

2 パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。



POINT

- 外部ディスプレイは、コネクタボックスの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。
- より鮮明に画像を表示したい場合は、パソコン本体の外部ディスプレイコネクタをお使いください。
- パソコン本体とコネクタボックスでは、外部ディスプレイコネクタの向きが逆になっています。

3 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
  - パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
  - 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示される
    この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
- 外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニット（USB）または FDD ユニット（FMV-NFD324）は離して使用してください。

6 画面の表示を切り替えます。

【Fn】キーを押しながら、【F10】キーを押すと、LCD → CRT →同時表示→ LCD…の順で表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます（▶『ソフトウェアガイド』参照）。

14 セキュリティについて

本パソコンは、他人による不正使用を防止するため、セキュリティ機能としてセキュリティボタンが内蔵されています。また、お使いのモデルにより、スマートカードや指紋センサーなどのセキュリティ機能が使用できます。

セキュリティボタンについて

パソコン本体の起動時やレジューム時に、添付の「セキュリティボタン」で設定したパスワードを入力することにより、本パソコンが使用できるようになります。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

POINT

- セキュリティボタンについては、『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

スマートカードについて

お使いのモデルにより、スマートカードが使用できます。
BIOS の起動時、Windows の起動時やアプリケーションの起動時に、パスワードなどのセキュリティ情報を登録したスマートカードをセットすることにより、本パソコンが使用できるようになります。

POINT

- スマートカードについては、『スマートカードホルダー取扱説明書』をご覧ください。
- スマートカードホルダーは、PC カードスロットにセットします（▶P.16）。

指紋センサーについて（Windows95 および WindowsNT ではサポート外）

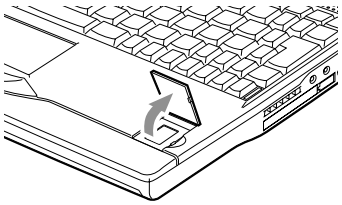
お使いのモデルにより、指紋センサーを搭載しています。
Windows の起動時やレジューム時に、指紋を登録した指を指紋センサーに載せることにより、本パソコンが使用できるようになります。
ここでは、指紋センサーに指を載せる方法を説明します。

POINT

- **指紋の登録方法や認証方法などは、『指紋センサー取扱説明書』をご覧ください。**

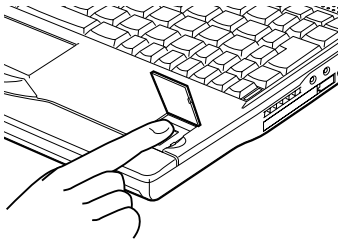
1　指紋センサーのカバーを開きます。

指紋センサーのくぼみに指をかけ、カバーを開きます。



2　指紋センサーの上に指を載せます。

指紋の認証が正常に終了すると、本パソコンが使用できるようになります。



3　指紋センサーのカバーを閉じます。

カバーがしっかり閉じていることを確認してください。

第 3 章

BIOS セットアップ

BIOSセットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは 84
2 BIOS セットアップの操作のしかた 85
3 ご購入時の設定に戻す 90
4 メニュー詳細 91
5 BIOS のパスワード機能を使う 102
6 BIOS が表示するメッセージ一覧 106

1　BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。
BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 省電力モード（電源を入れた状態で本パソコンを一定時間使用しなかったときに、消費電力を減らして待機している状態）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重 要

- BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（••▶ P.85）の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- OS により、設定する値が異なる項目があります（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

POINT

- BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。
- 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
  本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
  本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST : Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

1 作業を終了してデータを保存します。

2 状態表示 LCD の や および FDD ユニット(USB)のアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。

- Windows2000 の場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して「OK」をクリックします。
- Windows Me、Windows98 または Windows95 の場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動」、「再起動する」または「コンピュータを再起動する」を選択し、「OK」または「はい」をクリックします。
- WindowsNT の場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「コンピュータを再起動する」を選択して、「はい」をクリックします。

3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

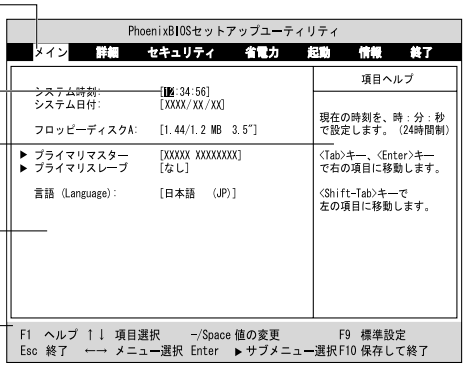
メニューバー
メニューの名称が表示されます。

カーソル
設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。



POINT

- BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- 手順 3 で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 【Space】キーまたは【−】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。
「BIOS セットアップを終了する」（▪▪▶ P.89）

重 要

- BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
  設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「変更内容を取り消す」（▪▪▶ P.88）をご覧ください。
- 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」（▪▪▶ P.90）をご覧ください。
- 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
  項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
  元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Fn】キー +【↑】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
【Fn】キー +【↓】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
【Fn】キー +【←】キー	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
【Fn】キー +【→】キー	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
【F5】キー、【−】キー	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
【F6】キー、【Space】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー、 【Alt】キー +【X】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
【F1】キー、 【Alt】キー +【H】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。

POINT

- ここでいう【−】キーは のことです。
- 「+」でつながれたキーは、前半のキーを押しながら後半のキーを押す動作を表しています。たとえば【Alt】キー ＋【X】キーは、【Alt】キーを押しながら【X】キーを押す動作を表しています。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更前の値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更前の値を読み込みますか？ ［はい］　［いいえ］

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

POINT

- サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。
- 次の操作をすると、設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。
  1「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
  設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
  設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。
  2【←】キーまたは【→】キーで「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
  すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

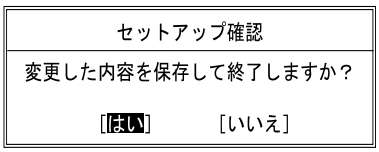
変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。



3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。
- 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。
  「変更内容を取り消す」（▶▶ P.88）
- 次の操作をすると、いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。
  1「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
  「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
  2【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3　ご購入時の設定に戻す

「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。
すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

1 BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」（▪▪▶ P.85）

2 【Esc】キーを押します。
「終了」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
標準設定値を読み込みますか？ [はい]　　[いいえ]

4 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

5 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？ [はい]　　[いいえ]

6 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

続いて、『ソフトウェアガイド』の「リカバリ方法」をご覧になり、項目の設定または確認を行ってください。

POINT

- サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。
- 保存後に設定操作を続けたいときは、手順 5 で「変更を保存する」を選択して、【Enter】キーを押してください。
- お使いのモデルによっては、「標準設定値を読み込む」を実行しても、一部の項目がご購入時の設定に戻りません。『ソフトウェアガイド』の「リカバリ方法」をご覧になり、項目の設定または確認を行ってください。

4 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

■ **システム時刻**

■ **システム日付**

■ **フロッピーディスク A**

POINT

- コネクタボックスの FDD ユニットコネクタに FDD ユニット（FMV-NFD324）を接続する場合は「1.44/1.2MB 3.5"」に設定してください（ご購入時の設定）。
- FDD ユニット（USB）や内蔵スーパーディスクドライブユニットにセットしたフロッピーディスクから起動する場合は「使用しない」に設定してください。

■ **プライマリマスター**

■ **プライマリスレーブ**

POINT

- 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」（••▶P.101）を実行した直後は、「プライマリマスター」、「プライマリスレーブ」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

● タイプ

POINT

- 通常は「自動」に設定してください。

● シリンダ数
● ヘッド数
● セクタ数

POINT

- シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違って設定すると、正常に動作しなくなります。
- 最大容量が 8.4GB を超えるハードディスクを取り付け、「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

■ 言語（Language）

POINT

▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

■ プラグアンドプレイ対応 OS

POINT

▶ Windows2000、WindowsNT では「いいえ」に設定してください。

■ デバイス設定の保護

■ シリアル／パラレルポート設定

POINT

▶ I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に＊が表示されます。

- シリアルポート
  - I/O アドレス
  - 割り込み番号
- 赤外線通信ポート
  - モード

POINT

▶「FIR」に設定する場合は、高速モードに対応した赤外線通信用ソフトが必要です。また、FIR 用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

  - I/O アドレス
  - 割り込み番号
  - I/O アドレス
  - DMA チャネル

- パラレルポート
  - モード
  - I/O アドレス
  - 割り込み番号
  - DMA チャネル

POINT

- 「DMA チャネル」は、「モード」の項目を「ECP」に設定したときに表示されます。通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートの FIR 用に割り当てられています。

■ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

POINT

- PS/2 規格のマウスやキーボードのみ有効です。
- マウスやキーボードによっては、ホットプラグに対応していない場合があります。動作中のパソコン本体にマウスやキーボードを接続しても認識されない場合は、一度取り外し、しばらくしてからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、パソコン本体の電源を切るか、パソコン本体をサスペンドにして接続してください。
- ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。
- 拡張キーボード／マウスコネクタに、『バーコードリーダ（FMV-BCR101）』、『バーコードタッチリーダ（FMV-BCR201）』、『磁気カードリーダ（FMV-MCR101）』などの入力装置を接続する場合は、「使用しない」に設定してください。また、「省電力モード」（••▶P.97）の設定も「使用しない」に設定してください。
- 「内蔵ポインティングデバイス」の項目を「手動」または「常に使用しない」に設定した場合は、ホットプラグ機能は使用できません。

- 内蔵ポインティングデバイス

POINT

- Microsoft 社製の IntelliMouse™ などのホイール機能付き PS/2 マウスは、設定が「自動」または「常に使用しない」の場合のみ使用できます。

■ ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

- 全体表示

POINT

- 本パソコンの起動後は、【Fn】キーを押しながら【F5】キーを押すことで表示の切り替えを行うことができます。

■ その他の内蔵デバイス設定

- フロッピーディスクコントローラ

POINT

- コネクタボックスの FDD ユニットコネクタに FDD ユニット（FMV-NFD324）を接続する場合は「使用する」に設定してください（ご購入時の設定）。
- FDD ユニット（USB）や内蔵スーパーディスクドライブユニットにセットしたフロッピーディスクから起動する場合は「使用しない」に設定してください。

- IDE コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス（LAN 内蔵モデルのみ）

POINT

- 本項目が「自動」に設定されている場合、バッテリ運用で本パソコンを起動すると、本パソコンは LAN ケーブルの接続を確認します。このとき、LAN ケーブルが接続されていないと、本パソコンは省電力のため内蔵 LAN デバイスを使用禁止にします。

- 指紋センサー（指紋センサー内蔵モデルのみ）

■ PCI 設定

- 割り込み番号の予約
  - IRQ 3 ～ IRQ 15

■ CPU 設定（FMV-655MF8/W を除く）

- プロセッサシリアルナンバ

POINT

- Intel プロセッサ・シリアルナンバ・コントロールユーティリティを使用する場合は、「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定した場合、Intel プロセッサ・シリアルナンバ ・コントロールユーティリティなどのユーティリティで Enabled に設定できなくなります (本パソコンには Intel プロセッサ・シリアルナンバ・コントロールユーティリティは添付されていません。詳細については、http://www.intel.com/jp/pentiumiii/ をご覧ください)。
- Windows Me、Windows2000、Windows98、WindowsNT4.0 以外の OS を使用する場合、Intel プロセッサ・シリアルナンバ・コントロールユーティリティが使用できないため、本項でプロセッサシリアルナンバ機能の設定を行ってください。

- Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ

■ USB 設定

- USB フロッピーディスク

POINT

- FDD ユニット（USB）にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、「使用する」に設定してください。

■ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態

- イベントログの表示

POINT

- イベントログメッセージで、「POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX」というメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
  - システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

■ 管理者用パスワード

■ ユーザー用パスワード

■ 管理者用パスワード設定

POINT

- 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
  - ユーザー用パスワード設定
  - ユーザー用パスワード文字数
  - 起動時のパスワード
  - 自動起動時のパスワード
  - レジューム時のパスワード
  - 取り外し可能なディスクからの起動
  - フロッピーディスクアクセス
  - ハードディスクセキュリティ
  - スマートカードによるロック
  - 所有者情報

■ ユーザー用パスワード設定

POINT

- 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

■ ユーザー用パスワード文字数

POINT

- 本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

■ 起動時のパスワード

■ 自動起動時のパスワード（LAN 内蔵モデルのみ）

POINT

- 「省電力」メニューの「詳細設定」の「LAN によるレジューム」を「使用する」に設定している場合に有効です。
- USB 規格の周辺機器は「自動起動時のパスワード」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

■ レジューム時のパスワード

POINT

- ACPI に対応した OS では、本項目は無効になります。
- 本設定が有効の場合は次の点にご注意ください。
  - 本項目を「使用する」に設定した場合は、レジュームの際に起動時に入力したパスワードを入力するまで、キーボードやマウスの入力が無効になります。
  - USB 規格の周辺機器は「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

■ 取り外し可能なディスクからの起動

■ フロッピーディスクアクセス

POINT

- 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS（WindowsNT など）では、正しく動作しません。
- 別売の FDD ユニット（USB）やスーパーディスクドライブへのアクセス制限はできません。

■ スマートカードによるロック

POINT

- 本項目は、スマートカードホルダーをセットしている場合のみ表示されます。
- 本項目を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
  - 管理者用パスワード設定
  - ユーザー用パスワード設定
  - ユーザー用パスワード文字数
  - 自動起動時のパスワード（常に「使用しない」となります）

■ ハードディスクセキュリティ

- プライマリマスター
- プライマリスレーブ

重 要

- 本パソコンでは「プライマリスレーブ」は使用できません。
- 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

■ 所有者情報

POINT

- 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

■ ハードディスク起動セクタ

POINT

- OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS（WindowsNTなど）では、正しく動作しません。

■ レジューム時のセキュリティボタン

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。
省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ACPI に対応した OS では項目によっては設定が無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。
- BIOS セットアップでは Windows Me、Windows2000 または Windows98 の「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「Save To Disk」と表記しています。

■ 省電力モード

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効になります。

- ハードディスク省電力

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「ハードディスクの電源を切る」の設定が有効になります。

● ディスプレイ省電力

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「モニタの電源を切る」の設定が有効になります。
- ACPI に対応していない OS では、シリアルマウス（••▶P.100）の入力をポインティングデバイスからの入力として、ディスプレイ省電力に反映させることができます。

● スタンバイタイマー

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効になります。

● サスペンドタイマー

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「システムスタンバイ」の設定に従って、サスペンドします。

■ サスペンド動作

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の「電源ボタン」の設定が有効になります。
  ACPI に対応していない OS の場合は、次の点にご注意ください。
  - 本項目を「サスペンド」に設定しても Save To Disk 状態になる場合
    ・【Fn】キーを押しながら SUS/RES スイッチを押したとき
    ・Windows95 モデルで省電力管理ユーティリティ（••▶『ソフトウェアガイド』参照）の「Save To Disk」ボタンを押したとき
  - 本項目を「Save To Disk」に設定したり、「自動 Save To Disk」の項目を「1 時間後に移行する」に設定しても、サスペンド状態になる場合
    ・Save To Disk 領域があらかじめ作成されていないとき
    ・「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」（••▶ P.99）が「使用する」に設定されているとき
    ・LOW バッテリ状態で自動的にサスペンドするとき
    ・Windows95 の「パワーマネージメント（電源のプロパティ）」（••▶『ソフトウェアガイド』参照）で「電話が鳴ったらコンピュータを元の状態に戻す」の設定が有効のとき

● 自動 Save To Disk

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となります。

■ モデム着信によるレジューム

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、通信ソフトの設定が有効になります。
  ACPI に対応していない OS で「使用する」に設定する場合は次の点にご注意ください。
  - 本パソコンがレジューム後、アプリケーションが電話回線からの着信を検出できるよう、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、お使いになるモデムのマニュアルをご覧ください。
  - サスペンド時の消費電力が増加するため、サスペンド状態の保持時間が短くなります。この場合は、AC アダプタをお使いください。
  - 「スタンバイタイマー」（••▶ P.98）を「使用しない」に設定してください。

■ 時刻によるレジューム

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目が無効となり、「タスク」または「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

■ レジューム時刻

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目が無効となり、「タスク」または「タスクスケジューラ」の設定が有効になります。

■ 詳細設定

● サスペンド／レジュームスイッチ

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。

● カバークローズ サスペンド

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の設定が有効になります。
- ACPI に対応していない OS で「使用する」に設定したときは、次の場合は液晶ディスプレイを閉じてサスペンドしないでください。
  - ハードディスクアクセス時や PC カード使用時
  - OS の終了処理時

● カバーオープン レジューム

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となります。

- LAN によるレジューム（LAN 内蔵モデルのみ）

POINT

- ACPIに対応したOSでは、MAINスイッチがONでOSが終了している状態のみ有効です。

- シリアルマウス

POINT

- ACPI に対応した OS では本項目は無効となります。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

■ 高速起動

■ 起動時の自己診断画面

■ ネットワークサーバからの起動（LAN 内蔵モデルのみ）

■ 起動デバイスの優先順位

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- ATAPI CD-ROM ドライブ
- Intel UNDI、PXE-2.0（LAN 内蔵モデルのみ）

POINT

- 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「Intel UNDI PXE-2.0」は、LAN 内蔵モデルで「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「Intel UNDI PXE-2.0」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。
- CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。
  再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- **BIOS 版数**
- **BIOS 日付**
- **BIOS 領域**
- **CPU タイプ**
- **CPU 速度**
- **L1 キャッシュ**
- **L2 キャッシュ**
- **全メモリ容量**
  - メモリスロット

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

- **変更を保存して終了する**
- **変更を保存せずに終了する**
- **標準設定値を読み込む**
- **変更前の値を読み込む**
- **変更を保存する**

POINT

- お使いのモデルによっては、「標準設定値を読み込む」を実行しても、一部の項目がご購入時の設定に戻りません。『ソフトウェアガイド』の「リカバリ方法」をご覧になり、項目の設定または確認を行ってください。

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

重 要

- スマートカードによるセキュリティを使用しない場合は BIOS セットアップの「セキュリティメニュー」の「スマートカードによるロック」の設定を変更しないでください。本パソコンが二度と起動できなくなります。
- スマートカードによるセキュリティの設定方法は、『スマートカードホルダー（FMV-J501）取扱説明書』をご覧ください。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

- 管理者用パスワード
  本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
  「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」（▶ P.85）

2 セキュリティメニュー（P.95）の「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。[_]
新しいパスワードを確認して下さい。[　　]

または

ユーザー用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。[_]
新しいパスワードを確認して下さい。[　　]

3 8 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」（P.95）で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重 要

- 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを３回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- Windows2000 の「電源オプションのプロパティ」または Windows Me、Windows98 の「電源の管理のプロパティ」で、「スタンバイおよび休止状態から回復時にパスワードを入力する」または「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効に設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

重 要

- ハードディスクセキュリティ（▶P.96）を設定したハードディスクを他のパソコンに接続して使用する場合も、本パソコンで設定した管理者用パスワードもしくはユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
- USB 規格のオプション機器は「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外になります。そのため、USB マウスなどの USB 機器はパスワードを入力しなくても使用できます。

パスワードを変更する／削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1. 「パスワードを設定する」の手順 1 ～ 2（▶ P.102）を行います。
2. 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
   「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
3. 8 桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
   「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重 要

- 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

4 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

5 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- 誤ったパスワードを３回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3 ～ 4 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のとき、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。
それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください。
「ご購入時の設定に戻す」（▪▪▶ P.90）

POINT

- お使いの OS により、設定する値が異なる場合があります（▪▪▶『ソフトウェアガイド』参照）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST（▪▪▶ P.84）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- **<ESC> キー：自己診断画面 /<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ**
  起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（▪▪▶P.86）が表示されます。
- **<F12> キー：起動メニュー /<F2> キー：BIOS セットアップ**
  起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（▪▪▶P.86）が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。
- **BIOS セットアップを起動しています ...**
  BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- **nnnM システムメモリテスト完了。**
  システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- **nnnnK メモリキャッシュテスト完了。**
  キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。**
  システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- **マウスが初期化されました。**
  マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」の項目を「表示する」（▪▪▶P.100）に設定してください。

エラーメッセージ

- **システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx**
  誤りビット : zzzz zzzz
  システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx**
  誤りビット : zzzz zzzz
  拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **メモリキャッシュのエラーです。-- キャッシュは使用できません。**
  キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードコントローラのエラーです。**
  キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードエラーです。**
  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **フロッピーディスク A のエラーです。**
  フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **ディスクエラーです。: ハードディスク n**
  ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
  BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムタイマーのエラーです。**
  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**
  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
- **<F1> キー：継続 /<F2> キー：BIOS セットアップ**
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
  日付と時刻の設定値が不正です。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **パスワードで保護されています。: ハードディスク n**
  取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- **サポートされないタイプのメモリが検出されました。**
  本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- **メモリタイプのエラーです。：SPD が 66MHz のメモリを示しています。**
  本システムには 100MHz のメモリが必要です。電源を落としてください。
  本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。- メモリ速度が不明です。**
  システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
  メモリ速度 100MHz で起動しますか？
  <Y> を押すとこのまま起動し、<N> を押すとシステムを停止します。
  メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
  【N】キーを押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。- メモリ速度が不明です。**
  メモリ速度 100MHz で起動します。
  メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
  メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。**
  Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
  ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
- **ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。**
  Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
  ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
- **ハードディスクが検出されませんでした。**
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- **不明な Save To Disk エラーが発生しました。**
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ハードディスクからの読み取りに失敗しました。
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ハードディスクへの書き込みに失敗しました。
  Save To Disk 機能は使用できません。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。
  Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
- Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。
  システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
  <F1> キーを押すと、このまま起動します。
- Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。
  システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
  <F1> キーを押すと、このまま起動します。
- Invalid system disk
  Replace the disk, and then press any key
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- Non-System disk or disk error
  Replace and press any key when ready
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- Operating system not found
  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- PXE-E61:Media test failure, Check cable
  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターに連絡してください。

- PXE-E51:No DHCP or BOOTP offers received

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。起動時に必要な IP アドレスが取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターに連絡してください。
- PXE-E53:No boot filename received

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバから boot filename を取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターに連絡してください。
- PXE-E78:Could not locate boot server

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバがないか、正しく動作していません。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターに連絡してください。
- PXE-E89:Could not download boot image

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバ上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターに連絡してください。
- PXE-E32:TFTP open timeout

  Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、ご購入元または弊社パーソナルエコーセンターに連絡してください。

POINT

- 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

第 4 章

困ったときに

本パソコンにトラブルが発生した場合などの解決方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

1　こんなときには 114

1　こんなときには

困ったとき、ヘン！と思ったとき、こんなことがしたい…というときに読んでください。関連項目ごとにわけて説明しています。ソフトウェアについては『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

■ 電源が入らない

- **AC アダプタは接続されていますか？**
  お買い上げ後、最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してください（••▶P.32）。
- **MAIN スイッチを ON にしてありますか？**
  MAIN スイッチが ON になっていないと、SUS/RES スイッチを押しても電源は入りません（••▶P.33）。
- **バッテリは充電されていますか（バッテリ運用時）？**
  状態表示 LCD（••▶P.23）でバッテリ残量を確認してください。バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください（••▶P.32）。
- **長期間未使用状態ではありませんでしたか？**
  長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続し、MAIN スイッチを ON にして電源を投入してください（••▶P.32）。

■ 液晶ディスプレイに何も表示されない

- **状態表示 LCD に ⏻ が点灯していますか？**
  - **点灯している場合**
    【Fn】キーを押しながら【F6】キー、または【Fn】キーを押しながら【F7】キー（••▶P.29）を押して明るさを調節してください。
  - **点滅または消灯している場合**
    SUS/RES スイッチを押して動作状態にしてください（••▶P.13）。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください（••▶P.40）。
    AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- **状態表示 LCD に何か表示されていますか？**
  何も表示されていないときは電源が入っていません。パソコン本体の電源を入れてください（••▶P.32）。

● **キーを操作していましたか？**

本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないとCPUが停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、Windows2000モデルでは「電源オプションのプロパティ」、Windows Meモデル、Windows98モデルでは「電源の管理のプロパティ」、Windows95モデルでは「省電力管理ユーティリティ」、WindowsNTモデルではBIOSセットアップの「省電力モード」の「ハードディスク省電力」と「ディスプレイ省電力」で省電力の設定を変更してください。ただし、WindowsNTモデルは添付のPortable Suiteをインストールすると省電力機能がサポートされます（▪▪▶『ソフトウェアガイド』参照）。

● **外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？**

【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押してLCD表示に切り替えてください（▪▪▶P.30）。

■ 液晶ディスプレイの表示が見にくい

● **液晶ディスプレイは見やすい角度になっていますか？**

液晶ディスプレイの角度を調節してください。

● **明るさなどを調節しましたか？**

【Fn】キーを押しながら【F6】キー、または【Fn】キーを押しながら【F7】キーを押して調節してください。

■ 液晶ディスプレイが閉まらない

● **間に物がはさまっていませんか？**

無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

■ バッテリ残量表示の点滅が止まらない

● **バッテリは正しく取り付けられていますか？**

バッテリが正しく取り付けられているか確認してください。正しい場合は、バッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください（▪▪▶P.45）。

● **LOWバッテリ状態（▪▪▶P.43）ではありませんか？**

ACアダプタを取り付けてバッテリを充電してください（▪▪▶P.40）。

■ バッテリが充電されない

● **ACアダプタは接続されていますか？**

ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

● **バッテリが熱くなっていませんか？（状態表示LCDの ➡ が点滅します）**

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

● **パソコン本体が冷えていませんか？（状態表示LCDの ➡ が点滅します）**

バッテリの温度が5℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

● **充電を途中で中断させていませんか？**

充電を始めてから、状態表示 LCD の ➡ が消灯するまでの間に本パソコンを使用したり、AC アダプタを取り外すと、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼動させ、バッテリ残量（••▶P.42）が 89% 以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、状態表示 LCD の ➡ が消灯するまで AC アダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

■ ハードディスクが使えない

● **エラーメッセージは出ていませんか？**

各エラーメッセージ（••▶P.108）を参照してください。

■ PC カードが使えない

● **PC カードスロットに正しくセットされていますか？**

PC カードのセットを確認してください（••▶P.51）。

■ フロッピーディスクが使えない

● **フロッピーディスクは正しくセットされていますか？**

フロッピーディスクのシャッタのある側から、ラベルの貼ってある面を上向きにして、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。

● **フロッピーディスクはフォーマットしてありますか？**

フロッピーディスクをフォーマットしてください。

● **BIOS セットアップの「フロッピーディスクA」と「フロッピーディスクコントローラ」の項目を正しく設定していますか？**

- FDD ユニット（FMV-NFD324）の場合

  BIOS セットアップの「フロッピーディスクA」の項目（••▶P.91）を「1.44/1.2MB 3.5"」に、「フロッピーディスクコントローラ」の項目（••▶P.94）を「使用する」に、「USB フロッピーディスク」の項目（••▶P.94）を「使用しない」に設定してください。
- FDD ユニット（USB）の場合

  BIOS セットアップの「フロッピーディスクA」の項目（••▶P.91）を「使用しない」に、「フロッピーディスクコントローラ」の項目（••▶P.94）を「使用しない」に、「USB フロッピーディスク」の項目（••▶P.94）を「使用する」に設定してください。
- 内蔵スーパーディスクの場合

  BIOS セットアップの「フロッピーディスクA」の項目（••▶P.91）を「使用しない」に、「フロッピーディスクコントローラ」の項目（••▶P.94）を「使用しない」に、「USB フロッピーディスク」の項目（••▶P.94）を「使用しない」に設定してください。

● **BIOS セットアップの「フロッピーディスクアクセス」の項目を「管理者のみ可能」に設定していませんか？**

「フロッピーディスクアクセス」の項目（••▶P.96）を「常に可能」に設定してください。

● **フロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか？**

フロッピーディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。

● **別のフロッピーディスクは使用できますか？**

別のフロッピーディスクが使用できる場合、使用できないフロッピーディスクは壊れている可能性があります。

■ CD からデータの読み出しができない

- **CD が正しくセットされていますか？**
  CD のレーベル面を上にして、正しくセットしてください（••▶P.63）。
- **CD が汚れていたり、水滴がついていませんか？**
  乾いた柔らかい布で、中央から外側に向かって拭いてください。
- **CD が傷ついたり、極端に反っていませんか？**
  CD を交換してください。
- **規格外の CD を使用していませんか？**
  規格に合った CD をお使いください。
- **内蔵 CD-ROM ドライブユニットをしっかり取り付けましたか？**
  モバイルマルチベイに内蔵 CD-ROM ドライブユニットをしっかり取り付けます（••▶P.62）。

■ CD が取り出せない

- **パソコン本体は動作状態になっていますか？**
  本パソコンの内蔵 CD-ROM ドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です（••▶P.63）。
  なお、何らかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウの CD-ROM アイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、内蔵 CD-ROM ドライブユニット前面の EJECT ボタンの右側の穴をボールペンなどでつついてください（••▶P.64）。

■ CD アクセス表示が点滅する

- **自動挿入が有効になっていませんか？**
  Windows Me、Windows98 または Windows95 で CD の自動挿入が有効になっていると、定期的に CD の有無の検出が行われます。自動挿入を無効にしてください（••▶P.25）。

■ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- **スピーカーの出力は ON になっていますか？**
  【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押してスピーカーの出力を確認してください（••▶P.29）。
- **音量ボリュームは正しく調節されていますか？**
  【Fn】キーを押しながら【F8】キーまたは【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。また、OS の「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。音が割れる場合は音量を小さくしてください。それでも変わらないときは、サウンドドライバが正しくインストールされているか確認してください。

■ マイクやラインイン・ジャックからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  OS の「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などの録音の項目を有効にし、音量調節を行ってください（••▶P.127）。

■ 省電力機能が実行されない

- **Windows Me、Windows2000 および Windows98 の場合**

  OS の省電力機能を「なし」に設定していませんか？

  「コントロールパネル」の「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で設定してください。

- **Windows95 の場合**

  BIOS セットアップの「省電力モード」の項目を「使用しない」に設定していませんか？

  BIOS セットアップの「省電力モード」の設定（••▶P.97）を確認してください。

- **WindowsNT の場合**

  BIOS セットアップの「省電力モード」の「ディスプレイ省電力」の項目を「使用しない」に設定していませんか？

  BIOS セットアップの「省電力モード」の「ハードディスク省電力」と「ディスプレイ省電力」以外の項目は「使用しない」に設定してください。

■ 画面にメッセージが表示された

メッセージ一覧（••▶P.107）をご覧ください。

それでも解決できないときは

どうしても原因がわからないときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元へご連絡ください（••▶『ソフトウェアガイド』参照）。

第5章

技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 ハードウェアのお手入れ 120
2 テレビやラジオなどの受信障害防止について 123
3 フロッピーディスクユニットについて 124
4 外部ディスプレイの走査周波数について 126
5 音量の設定について 127
6 コネクタのピン配列と信号名 131
7 仕様一覧 134
8 その他の注意事項 140

1 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠警告

感電

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
  ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3 ヶ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ
商品番号：0212116
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた（FDD ユニット（USB）の場合）

1. クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。
2. デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、フロッピーディスクドライブにアクセスします。
3. メッセージが表示されたら「いいえ」をクリックします。
4. フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

お手入れのしかた（FDD ユニット（FMV-NFD324）の場合）

■ Windows Me、Windows2000 または WindowsNT の場合

1 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 コマンドプロンプトから、dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。
dir a:

3 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

■ Windows98 または Windows95 の場合

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力して【Enter】キーを押します。
c:¥fjuty¥clndsk 0

3 クリーニングフロッピーをセットして【Enter】キーを押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。

4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

スーパーディスクドライブのクリーニング

スーパーディスクドライブは長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングディスクを使用して、3ヶ月に 1 回程度の割合でクリーニングしてください。

用意するもの

商品名：スーパーディスククリーニングディスク
商品番号：0215130
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた

1 クリーニングディスクをスーパーディスクドライブにセットします。
自動的にクリーニングが始まり、20 秒程で自動的に終了します。

2 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、クリーニングディスクを取り出します。

POINT

- クリーニングは、必ずスーパーディスクドライブ専用品を使用してください。フロッピーディスクドライブ用のクリーニングフロッピーを使用すると、ヘッドを破損させ、故障の原因となります。
- クリーニング中は大きな音がしますが、故障ではありません。
- クリーニング終了後（クリーニングディスク取り出し後）、4 ～ 5 分間はスーパーディスクをセットしないでください。ヘッドを破損させ、故障の原因となります。

2 テレビやラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合していますが、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるテレビやラジオなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。
テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような項目にご注意ください。

本パソコンの留意点

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使用し、それ以外のケーブルは使用しないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオなどの留意点

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナを、受信障害が生じない位置や方向にしてください。
- アンテナ線は、同軸ケーブルを使用してください。

本パソコンが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンの電源を切ることで確認できます。
テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

3 フロッピーディスクユニットについて

本パソコンには、FDD ユニット（USB）、FDD ユニット（FMV-NFD324）および内蔵スーパーディスクドライブユニットを接続できます。ここでは、これらのユニットを使用する場合の注意事項について説明します。

重 要

- AC アダプタや外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニット（USB）または FDD ユニット（FMV-NFD324）は離して使用してください。
- 本パソコンで同時に使用できるユニットは、2 台までです。「FDD ユニット（USB）」、「FDD ユニット（FMV-NFD324）」および「内蔵スーパーディスクドライブユニット」を 3 台同時に接続して使うことはできません。
- FDD ユニット（USB）（FMV-NFD51S）は、Windows95 および WindowsNT ではサポートしていません。
- FDD ユニット（USB）にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の使用のみサポートしています。

POINT

- FDD ユニット（FMV-NFD324）は、コネクタボックスの FDD ユニットコネクタに接続して使います。

FDD ユニット（USB）／内蔵スーパーディスクドライブユニットについて

- FDD ユニット（USB）にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、BIOS セットアップの次の項目を設定してください。本パソコンご購入時は、設定されていません。
  - 「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」：使用しない
  - 「詳細」メニューの「その他の内蔵デバイス設定」の「フロッピーディスクコントローラ」：使用しない
  - 「詳細」メニューの「USB 設定」の「USB フロッピーディスク」：使用する

  「BIOS セットアップの操作のしかた」（▪▪▶ P.85）
- Windows Me または Windows98 で FDD ユニット（USB）と内蔵スーパーディスクドライブユニットのどちらか 1 台を接続して本パソコンを起動した場合は、起動時に接続していたユニットが A ドライブになります。
- Windows Me または Windows98 で FDD ユニット（USB）と内蔵スーパーディスクドライブユニットを両方接続して本パソコンを起動した場合は、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」の「フロッピーディスクドライブ」（▪▪▶ P.100）で優先順位を高く設定したユニットが A ドライブになります。ただし、この設定は本パソコンの起動時に接続されているユニットによって、優先順位が変更される場合があります。その場合は、設定し直してください。

- Windows Me または Windows98 で Softex BayManager をインストールしている場合は、FDD ユニット（USB）が A ドライブになります。FDD ユニット（USB）を接続していない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウなどに A ドライブが表示されません。

POINT

- FDD ユニット（FMV-NFD324）を使用する場合は、「FDD ユニット（FMV-NFD324）について」（▶ P.125）をご覧ください。
- BIOS セットアップの「終了」メニューで「標準設定値を読み込む」を選択した場合は、もう一度 BIOS セットアップを設定し直してください。

ドライブ名の割り当てについて

- お使いの状況によって、ドライブ名が異なる場合があります。
  - BIOS セットアップでの設定値
  - 本パソコン起動時に接続されているユニット
  - 本パソコン起動中のユニットの取り付け／取り外し
  - Windows98 以外の OS での本パソコンの使用
- 本パソコンを MS-DOS モードで起動した場合は、ドライブ名が異なることがあります。

FDD ユニット（FMV-NFD324）について

- FDDユニットを使用する場合は、BIOSセットアップの次の項目の設定を確認してください。なお、FDD ユニット（USB）や内蔵スーパーディスクドライブユニットをパソコン本体に接続している場合は、取り外してからパソコン本体の電源を入れて BIOS セットアップを起動してください。
  - 「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」：使用する
  - 「詳細」メニューの「その他の内蔵デバイス設定」の「フロッピーディスクコントローラ」：使用する
  - 「詳細」メニューの「USB 設定」の「USB フロッピーディスク」：使用しない

  「BIOS セットアップの操作のしかた」（▶ P.85）

  BIOS セットアップの設定を変更後、FDD ユニット（USB）や内蔵スーパーディスクドライブユニットを使用する場合は、パソコン本体の電源を切ってから取り付けてください。
- BIOSセットアップでFDDユニットを使用できるように設定した場合、FDDユニットがAドライブになります。FDD ユニットを接続していない場合も同様です。

4 外部ディスプレイの走査周波数について

外部ディスプレイ表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数を選択することができます。
ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度（ドット）	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
640 × 480	31 ～ 43	60 ～ 85
800 × 600	37 ～ 53	60 ～ 85
1024 × 768	48 ～ 68	60 ～ 85
1280 × 1024	64 ～ 91	60 ～ 85

同時表示の場合

外部ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
FMV-6600MF8/X FMV-6600MF8/X1 FMV-6600MF8/X2	48.5	60
FMV-655MF8/W	37.9	60

POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
- 「リフレッシュレート」とは、1 秒間に画面を書き替える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります。

5　音量の設定について

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスでそれぞれの音量を調節します。

「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスを表示するには、タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックします。
音量を設定するには、「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックして表示されるウィンドウで「再生」または「録音」をクリックし、「OK」をクリックします。
なお、※が付いている項目は、ご購入時は表示されていません。また、ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。

POINT

- 表示されていない項目（※が付いている項目）を表示させる場合は、次のように設定します。
  1「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
  2「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
  項目が表示されるようになります。
- 解像度によっては、「ボリュームコントロール」または「Volume Control」などのダイアログボックスの一部を表示できないことがあります。

Windows Me、Windows2000 または Windows98 の場合

再生時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
Volume Control	×	パソコン全体の音量
WAVE	×	Wave ファイルの音量
3D Wide ※	×	3D 効果の調整
ZV Port ※	○	未使用
Auxiliary ※	○	未使用
Video ※	○	未使用
CD Audio	×	音楽 CD の音量
Line	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
Microphone ※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
Telephony ※	×	モデムの音量
Midi Out	×	本パソコン内蔵のソフトウェア MIDI の音量
Mono Out ※	×	未使用

録音時の音量設定

項目	選択	設定する音量
Mono+Mic ※	×	未使用
Stereo Out ※	×	再生音全体の録音音量
Auxiliary ※	×	未使用
Video ※	×	未使用
CD Audio	×	音楽 CD の録音音量
Line	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
Microphone	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
Telephony ※	×	モデムの録音音量

Windows95 の場合

再生時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
ボリュームコントロール	×	パソコン全体の音量
ZV ポート※	○	未使用
テレフォン※	×	モデムの音量
マイクロフォン※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
ライン	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の音量
ビデオ※	○	未使用
AUX ※	○	未使用
Wave アウト	×	Wave ファイルの音量
Midi アウト	×	本パソコン内蔵のソフトウェア MIDI の音量
3D ワイド	○	3D 効果の調整
モノアウト※	×	未使用

録音時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
テレフォン※	×	モデムの録音音量
マイクロフォン	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
ライン	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の録音音量
ビデオ※	×	未使用
AUX ※	×	未使用
ステレオ アウト※	×	再生音全体の録音音量
モノアウト＋マイク※	×	未使用

WindowsNT の場合

再生時の音量設定

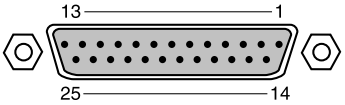
項目	ミュート	設定する音量
ボリュームコントロール	×	パソコン全体の音量
テレフォン※	×	モデムの音量
マイクロフォン※	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
ライン	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の音量
ビデオ※	○	未使用
AUX ※	○	未使用
Wave アウト	×	Wave ファイルやソフトウェア MIDI の音量
3D ワイド	○	3D 効果の調整
モノアウト※	×	未使用
ZV ポート※	○	未使用

録音時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
テレフォン※	×	モデムの録音音量
マイクロフォン	○	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
ライン	×	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
CD オーディオ	×	音楽 CD の録音音量
ビデオ※	×	未使用
AUX ※	×	未使用
ステレオ アウト※	×	再生音全体の録音音量
モノアウト＋マイク※	×	未使用

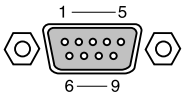
6　コネクタのピン配列と信号名

パラレルコネクタ（D-SUB25 ピン、メス）



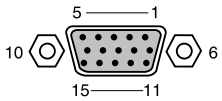
ピン番号	信号名	方向	説明
1	$\overline{\text{STROBE}}$	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	$\overline{\text{ACK}}$	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	$\overline{\text{AUTOFD}}$	出力	自動送り
15	$\overline{\text{ERROR}}$	入力	エラー
16	$\overline{\text{INIT}}$	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18 ～ 25	GND	―	グランド

シリアルコネクタ（D-SUB9 ピン、オス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	―	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

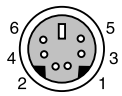
外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	―	未接続
5 ～ 8	GND	―	グランド
9	+5V	―	電源※
10	GND	―	グランド
11	NC	―	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

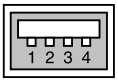
※：MAX 300mA

拡張キーボード／マウスコネクタ（PS/2 タイプミニ DIN6 ピン）



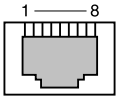
ピン番号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	キーボードデータ
2	MDATA	入出力	マウスデータ
3	GND	―	グランド
4	+5V	―	電源
5	KCLK	入出力	キーボードクロック
6	MCLK	入出力	マウスクロック

USB コネクタ



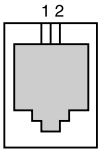
ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	―	ケーブル・電源
2	－ DATA	入出力	－データ信号
3	＋ DATA	入出力	＋データ信号
4	GND	―	ケーブル・グランド

LAN コネクタ（100BASE-TX/10BASE-T）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD ＋	出力	送信データ＋
2	TD －	出力	送信データ－
3	RD ＋	入力	受信データ＋
4	NC	－	未接続
5	NC	－	未接続
6	RD －	入力	受信データ－
7	NC	－	未接続
8	NC	－	未接続

モジュラーコネクタ（モデム）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

7 仕様一覧

FMV-6600MF8/X、FMV-655MF8/W

		FMV-6600MF8/X ※1※2	FMV-655MF8/W ※1
CPU ※3		Intel®SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル Pentium® III プロセッサ 600MHz	モバイル Intel®Celeron™ プロセッサ 550 MHz
キャッシュメモリ（CPU 内蔵）		32KB ＋ 2 次キャッシュ 256KB	32KB ＋ 2 次キャッシュ 128KB
メインメモリ		標準：64MB ／最大：256MB（カスタムメイド：128MB/256MB）（SDRAM） 拡張 RAM モジュールスロット× 1（メインメモリとして使用済）	
システムバスクロック		100MHz	
BIOS ROM		512KB（Boot block type flash ROM）	
内蔵ハードディスクドライブ ※4		標準：10GB（カスタムメイド：20GB）2.5 インチ ULTRA DMA/33 対応	
モバイルマルチベイ		1 スロット 標準：モバイルマルチベイカバー （カスタムメイド：内蔵 CD-ROM ドライブユニット／ 内蔵 CD-R/RW ドライブユニット／内蔵 PC カードユニット）	
FDD（外付）		標準：添付無（カスタムメイド：添付有）	
表示機能	画面制御 /VRAM 容量	3D アクセラレータ内蔵 ATI 社製 RAGE™Mobility-M[PCI 接続] ／ 4MB（SDRAM）	
	液晶ディスプレイ ※5 12.1 インチ TFT カラー	1024 × 768 ドット （ドットピッチ 0.2402 mm）	800 × 600 ドット （ドットピッチ 0.3075mm）
	色数 ・1280 × 1024 ドット時 ・1024 × 768 ドット時 ・800 × 600 ドット時 ・640 × 480 ドット時	1677 万色（仮想スクリーンモード）※6 1677 万色（FMV-655MF8/W のみ仮想スクリーンモード）※6 1677 万色※6 1677 万色※6	
	外部ディスプレイ表示 ・1280 × 1024 ドット時 ・1024 × 768 ドット時 ・800 × 600 ドット時 ・640 × 480 ドット時	 1677 万色 1677 万色 1677 万色 1677 万色	
	同時表示 ・1280 × 1024 ドット時 ・1024 × 768 ドット時 ・800 × 600 ドット時 ・640 × 480 ドット時	 1677 万色（仮想スクリーンモード）※6 1677 万色（655MF8/W のみ：仮想スクリーンモード）※6 1677 万色（液晶）※6 1677 万色（液晶）※6	
サウンド機能		AC-Link 接続サウンドチップ（16bit ステレオ PCM）、 ソフトウェア XG Wavetable 機能内蔵、 内蔵スピーカー（ステレオ）、ヘッドホン出力（ステレオ）、 内蔵マイク（モノラル）、ライン入力（ステレオ）、マイク入力 (モノラル)	

		FMV-6600MF8/X※1※2	FMV-655MF8/W※1
キーボード		一体型 OADG 配列準拠 87 キー Windows キー、アプリケーションキー付き キーピッチ :19mm　キーストローク :3mm	
内蔵ポインティングデバイス		フラットポイント、スクロールボタン	
セキュリティボタン※7		数字ボタン× 4 + Enter	
携帯電話接続		携帯電話接続用 USB ケーブル（オプション）	
内蔵モデム※8		データ：最大 56Kbps（V.90）/FAX：最大 14.4Kbps	
内蔵 LAN※10		100BASE-TX/10BASE-T	
インターフェース			
	モバイルマルチベイ	1 スロット 専用 88 ピン + 68 ピン	
	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット CardBus 対応	
	外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン	
	USB※11	USB コネクタ 4 ピン× 2	
	モデム※8	RJ-11	
	LAN※10	RJ-45	
	赤外線ポート	IrDA1.1 準拠× 1（最大 4Mbps）	
	ヘッドホン出力	φ3.5mm ステレオ・ミニジャック× 1	
	ライン入力	φ3.5mm ステレオ・ミニジャック× 1	
	マイク入力	φ3.5mm モノラル・ミニジャック× 1	
	コネクタボックス	専用 100 ピン（コネクタボックス専用）	
コネクタボックス（本体添付品）		インターフェース	
		LAN※10	RJ-45（本体右側面と排他）
		外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン（本体背面と排他）
		パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
		シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン（16550A 互換）
		キーボード	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
		マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
		外部 FDD	専用 26 ピン
		USB※11	USB コネクタ 4 ピン× 1（本体背面と排他）
電源供給方式		AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリ	
バッテリ稼動時間※12		約 3.5 時間（本体のみ）／ 約 7.0 時間（本体 + 増設）	約 3.0 時間（本体のみ）／ 約 6.5 時間（本体 + 増設）
バッテリ充電時間	サスペンド中／電源 OFF 時※13	約 4.0 時間（バッテリ 1 個時）／約 4.5 時間（バッテリ 2 個時）	
消費電力		約 45W	約 48W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率※14		S 区分 0.00094	S 区分 0.0011

		FMV-6600MF8/X ※1 ※2	FMV-655MF8/W ※1
動作環境	温度	+5 ～ 35 ℃	
	湿度	20 ～ 80%	
状態表示 LCD		反射型	
チルト		なし	
盗難防止用ロック		あり	
外形寸法　W × D × H		288.0 × 225.0 × 24.5 ～ 30.5mm（突起部含まず）	
重量※15		約 1.75kg ※16	約 1.77kg

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

FMV-6600MF8/X1、FMV-6600MF8/X2

		FMV-6600MF8/X1 ※1	FMV-6600MF8/X2 ※1
CPU ※3		Intel®SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル Pentium® III プロセッサ 600MHz	
キャッシュメモリ（CPU 内蔵）		32KB ＋ 2 次キャッシュ 256KB	
メインメモリ		標準：64MB ／最大：256MB（カスタムメイド：128MB/256MB）（SDRAM） 拡張 RAM モジュールスロット× 1（メインメモリとして使用済）	
システムバスクロック		100MHz	
BIOS ROM		512KB（Boot block type flash ROM）	
内蔵ハードディスクドライブ ※4		標準：10GB（カスタムメイド：20GB）2.5 インチ ULTRA DMA/33 対応	
モバイルマルチベイ		1 スロット 標準：モバイルマルチベイカバー （カスタムメイド：内蔵 CD-ROM ドライブユニット／ 内蔵 CD-R/RW ドライブユニット／内蔵 PC カードユニット）	
FDD（外付）		標準：添付無（カスタムメイド：添付有）	
表示機能	画面制御 /VRAM 容量	3D アクセラレータ内蔵 ATI 社製 RAGE™Mobility-M[PCI ×接続] ／ 4MB（SDRAM）	
	液晶ディスプレイ ※5 12.1 インチ TFT カラー	1024 × 768 ドット （ドットピッチ 0.2402 mm）	
	色数 ・1280 × 1024 ドット時 ・1024 × 768 ドット時 ・800 × 600 ドット時 ・640 × 480 ドット時	1677 万色（仮想スクリーンモード）※6 1677 万色※6 1677 万色※6 1677 万色※6	
	外部ディスプレイ表示 ・1280 × 1024 ドット時 ・1024 × 768 ドット時 ・800 × 600 ドット時 ・640 × 480 ドット時	 1677 万色 1677 万色 1677 万色 1677 万色	
	同時表示 ・1280 × 1024 ドット時 ・1024 × 768 ドット時 ・800 × 600 ドット時 ・640 × 480 ドット時	1677 万色（仮想スクリーンモード）※6 1677 万色（液晶）※6 1677 万色（液晶）※6 1677 万色（液晶）※6	
サウンド機能		AC-Link 接続サウンドチップ（16bit ステレオ PCM）、 ソフトウェア XG Wavetable 機能内蔵、 内蔵スピーカー（ステレオ）、ヘッドホン出力（ステレオ）、 内蔵マイク（モノラル）、ライン入力（ステレオ）、マイク入力 (モノラル)	
キーボード		一体型 OADG 配列準拠 87 キー Windows キー、アプリケーションキー付き キーピッチ :19mm　キーストローク :3mm	
内蔵ポインティングデバイス		フラットポイント、スクロールボタン	
セキュリティボタン※7		数字ボタン× 4 + Enter	
携帯電話接続		携帯電話接続用 USB ケーブル（オプション）	
内蔵モデム※8		データ：最大 56Kbps（V.90）/FAX：最大 14.4Kbps	

		FMV-6600MF8/X1 ※1	FMV-6600MF8/X2 ※1
H"IN ※9		H"IN モジュール内蔵（64Kbps ベストエフォート方式データ通信対応）	
インターフェース			
	モバイルマルチベイ	1 スロット 専用 88 ピン + 68 ピン	
	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット CardBus 対応	
	外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン	
	USB ※11	USB コネクタ 4 ピン× 1	
	モデム※8	RJ-11	
	赤外線ポート	IrDA1.1 準拠× 1（最大 4Mbps）	
	ヘッドホン出力	φ3.5mm ステレオ・ミニジャック× 1	
	ライン入力	φ3.5mm ステレオ・ミニジャック× 1	
	マイク入力	φ3.5mm モノラル・ミニジャック× 1	
	コネクタボックス	専用 100 ピン（コネクタボックス専用）	
コネクタボックス（本体添付品）		インターフェース	
		外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン（本体背面と排他）
		パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
		シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン（16550A 互換）
		キーボード	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
		マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
		外部 FDD	専用 26 ピン
		USB ※11	USB コネクタ 4 ピン× 1（本体背面と排他）
電源供給方式		AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリ	
バッテリ稼動時間※12		約 3.5 時間（本体のみ）／約 7.0 時間（本体 + 増設）	
バッテリ充電時間	サスペンド中／電源 OFF 時※13	約 4.0 時間（バッテリ 1 個時）／約 4.5 時間（バッテリ 2 個時）	
消費電力		約 45W 以下（AC 運用時）	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率※14		S 区分 0.00094	
動作環境	温度	+5 ～ 35 ℃	
	湿度	20 ～ 80%	
状態表示 LCD		反射型	
チルト		なし	
盗難防止用ロック		あり	
外形寸法　W × D × H		288.0 × 225.0 × 24.5 ～ 30.5mm（突起部含まず）	
重量※15		約 1.77kg	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

※印について

※1　以下、特に記述のない場合は、本パソコンの代表的構成（パソコン本体に内蔵バッテリパック、モバイルマルチベイにモバイルカバー、AC アダプタ運用）における仕様とします。
※2　指紋センサーが内蔵されているモデルもあります。
※3　アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。
※4　ハードディスク容量は、1MB ＝ 1000^2byte、1GB ＝ 1000^3byte は換算値です。1MB ＝ 1024^2byte、1GB ＝ 1024^3byte 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなります。
※5　以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）、または 144 万個以上（解像度 800 × 600 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

※6　液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。
※7　添付の「ワンタッチボタン設定」をインストールすると、数字ボタンは割り当てたアプリケーションの起動や新着 E メールの受信などを行うボタンとして使用できます。
※8　モデム内蔵モデルのみ。
※9　ご利用に際しては DDI ポケット㈱への加入契約が必要です。
※10　LAN 内蔵モデルのみ。
※11　すべての USB 規格対応の周辺機器について、動作保証するものではありません。なお、WindowsNT ではお使いになれません。
※12　本体のみ、省電力制御あり、バッテリ満充電の場合。ただし、使用条件により稼働時間は異なります。
※13　Windows98 での測定値です。
※14　サスペンドモード（充電なし。AC アダプタを含む）。
エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ方で定める複合理論性能で除したものです。
※15　モバイルマルチベイカバー搭載時。
※16　指紋センサー内蔵モデルは約 1.77kg です。

8 その他の注意事項

廃棄について

パソコン本体の廃棄について

本パソコンの液晶ディスプレイ（LCD）内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。また、本パソコンはリチウム電池を、またバッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、火中に投じると破裂のおそれがあります。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

マニフェスト伝票の発行義務について

本製品の所有者が事業主の場合には、本製品を廃棄する際にマニフェスト伝票（廃棄物管理票）の発行が義務付けられております。弊社では、富士通リサイクルシステムを構築し全国的に運用しておりますので、廃棄の際には（株）富士通ロジスティックス（電話番号：045-470-5305）へお問い合わせ願います。

なお、本製品の所有者が個人の場合にはマニフェスト伝票の発行義務はありません。

廃棄方法につきましては、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

索引

記号

【 】（アプリケーション）キー 31
【 】（ウィンドウズ）キー 31
【↑】【↓】【←】【→】
（カーソル）キー 30

A

AC（エーシー）アダプタ表示 23
【Alt】（オルト）キー..... 30

B

【Back Space】
（バックスペース）キー 31
BIOS セットアップ..... 84
BIOS セットアップ画面..... 85
BIOS セットアップの各キーの役割... 87
BIOS セットアップの
設定を変更する 86
BIOS セットアップの
変更内容を取り消す 88
BIOS セットアップを起動する..... 85
BIOS セットアップを
ご購入時の設定に戻す 90
BIOS セットアップを終了する..... 89
BIOS のパスワード機能を使う..... 102
【Break】（ブレーク）キー..... 30

C

【Caps Lock】
（キャップスロック）キー 30
Caps Lock
（キャップスロック）表示 24
CD 63
CD アクセス表示..... 23
CD のセット／取り出し..... 63
CRT ディスプレイを接続する..... 79
【Ctrl】（コントロール）キー 30

D

DC-IN コネクタ 20, 22
【Delete】（デリート）キー 30

E

【End】（エンド）キー 30
【Enter】（エンター）キー 30
【Esc】（エスケープ）キー.....29

F

【F1】～【F12】
（ファンクション）キー 29
FAX モデム.....67
FDD ユニットコネクタ 22
【Fn】（エフエヌ）キー.....29

H

【Home】（ホーム）キー.....30

I

【Insert】（インサート）キー 30

L

LAN コネクタ接続防止フラップ.....22
LAN（ラン）カード 50
LAN（ラン）コネクタ 21, 69, 133
LOW バッテリ状態 43

M

MAIN（メイン）スイッチ 19

N

【Num Lk】
（ニューメリカルロック）キー 30
Num Lock
（ニューメリカルロック）表示 24

P

【Pause】（ポーズ）キー 30
PC カード 50
PC カードアクセス表示 24
PC カードをセットする 51
PC カードを使うときの注意 50
PC カードを取り出す 53
PC（ピーシー）カード取り出し／
ロックボタン 16
【Pg Dn】（ページダウン）キー 31
【Pg Up】（ページアップ）キー 31
PHS 71
PHS 接続カード 50
PHS を接続する 71
POST 33, 84
【Prt Sc】
（プリントスクリーン）キー 30

S

【Scr Lk】（スクロールロック）キー . . . 30
Scroll Lock
（スクロールロック）表示 24
SCSI（スカジー）カード 50
【Shift】（シフト）キー 30
【Space】キー 30
SUS/RES（サスレス）スイッチ 13
SUS/RES（サスレス）表示 23
【SysRq】
（システムリクエスト）キー 31

U

USB マウス 73
USB（ユーエスビー）コネクタ 19

あ行

液晶ディスプレイ 13
エラーメッセージ 108
音量の設定 127

か行

解除ボタン 20
外部ディスプレイコネクタ 19, 21, 132
外部ディスプレイを接続する 79
拡張 RAM（ラム）
モジュールスロット 20
拡張キーボードコネクタ 21, 76
拡張キーボード／マウスコネクタ 132
カバークローズスイッチ 13
管理者用パスワード 102
キーボード 13, 28
キーボードを接続する 76
起動時の自己診断テスト 84
起動メニュー 100
空冷用ファン 19
クリック 27, 75
携帯電話 71
携帯電話接続カード 50
コネクタボックス 65
コネクタボックス取り外しレバー 21
コネクタボックスを取り付ける 65
コネクタボックスを取り外す 66
コネクタボックス接続コネクタ 20
困ったときに 113

さ行

指紋センサー 14
充電する 40
周辺機器 48
終了メニュー 101
詳細メニュー 92
状態表示 LCD（エルシーディー） 13
省電力メニュー 97
情報メニュー 101
シリアルコネクタ 22, 131
スクロール 27
スピーカー 13
正常時のメッセージ 107
赤外線通信ポート 19
セキュリティボタン 13
セキュリティメニュー 95
接続コネクタ 22
それでも解決できないときは 118

た行

ダブルクリック 27, 75
通気孔 15
テレビやラジオなどの受信障害 123
電界強度表示ランプ 12, 20

テンキーボードを接続する 76
テンキーモード 28
電源の入れかた 32
電源の切りかた 34
電源を入れるときの注意 32
電源を切るときの注意 34
盗難防止用ロック 18
ドラッグ 27, 75

な行

内蔵 FAX モデム 67
内蔵 LAN. 69
内蔵バッテリパック 20, 45
内蔵バッテリパックロック 20
内蔵マイク 13

は行

ハードウェアのお手入れ 120
ハードディスクアクセス表示 23
廃棄 122, 140
パスワード 102
パスワードを削除する 105
パスワードを設定する 102
パスワードを変更する 104
パソコン本体のお手入れ 120
バッテリ 40
バッテリで使う 41
バッテリの異常表示 42
バッテリの残量表示 42
バッテリの注意 44
バッテリ残量表示 23
バッテリ充電表示 23
バッテリ装着表示 23
パラレルコネクタ 22, 131
フラットポイント 14, 26
プリンタを接続する 77
フロッピーディスクアクセス表示 24
フロッピーディスクドライブの
お手入れ 120
ヘッドホン・ジャック 16
ポインティングデバイス 26
ポイント 27, 75
ボリュームコントロール 127

ま行

マイクイン・ジャック 15
マウスの接続 72
マウスの使いかた 75
メインメニュー 91
メッセージが表示されたとき 106
メッセージ一覧 106
メモリ 56
メモリを交換する 56
モジュラーコネクタ 16, 68, 133
モデム 67
モバイルマルチベイユニット 59
モバイルマルチベイユニット
取り外しレバー 18
モバイルマルチベイユニットを
交換する 62
モバイルマルチベイユニットを
使うときの注意 59

や行

ユーザー用パスワード 102

ら行

ラインイン・ジャック 15
ラッチ 14
リセット 38

わ行

ワイヤレススイッチ 17

Memo

Memo

保証について

- 保証書は必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間内に正常な使用状態において万一故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは、無理な使用による故障の場合は有料となりますので、ご注意ください（詳しくは保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときは、必ず保証書をご用意ください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 6 年間です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にお申し込みください。

■契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。
保守サービス料金は月額の定期保守料をお客様に負担していただきます。
料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

- 定期保守サービス
  トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。
  業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。
- 定額訪問修理サービス
  万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。
- 定額点検サービス
  トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。
  点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。
保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

- スポット訪問修理サービス
  お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。
  修理料金はその都度ご清算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。
- スポット持込修理サービス
  弊社パーソナルサービスセンター、またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただきます。経済的な費用で修理できます。
- スポット引取修理サービス
  お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。
  なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。
- スポット点検サービス
  お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。
  機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。

  ＊アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元へお問い合わせください。

FMV-6600MF8/X，FMV-655MF8/W，
FMV-6600MF8/X1，FMV-6600MF8/X2
FMV-BIBLO LIFEBOOK
ハードウェアガイド
B5FH-1881-01-01
発 行 日　2000 年 10 月
発行責任　富士通株式会社

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
● 無断転載を禁じます。